

# 専門分野

専門分野は、基礎分野・専門基礎分野で学んだ知識を活かして、各看護学の基盤となる「基礎看護学」を土台に、「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「健康状態別看護」「看護の統合と実践」「臨地実習」へと看護の学びを発展させていく内容としており、54科目 66単位で構成している。

基礎看護学 P2～	・ ・ ・ 看護学概論Ⅰ・Ⅱ コミュニケーションの基礎 ヘルスアセスメント 療養生活を支える援助技術Ⅰ・Ⅱ 看護展開方法の基礎 診療の補助技術Ⅰ・Ⅱ 臨床看護総論Ⅰ・Ⅱ
地域・在宅看護論 P24～	・ ・ ・ 地域と地域で暮らす人々の健康 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
成人看護学 P33～	・ ・ ・ 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
老年看護学 P39～	・ ・ ・ 老年看護学概論 老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ
小児看護学 P44～	・ ・ ・ 小児看護学概論 小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ
母性看護学 P48～	・ ・ ・ 母性看護学概論 母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ
精神看護学 P53～	・ ・ ・ 精神看護学概論 精神看護援助論Ⅰ・Ⅱ
健康状態別看護 P59～ (※領域横断)	・ ・ ・ 健康保持増進の看護 健康回復への看護 終末期と看護 周術期と看護 薬物療法と看護 看護展開方法の活用
看護の統合と実践 P70～	・ ・ ・ 看護管理と医療安全 災害看護と国際協力 看護の統合
臨地実習 P77～	・ ・ ・ 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ 看護展開実習 地域・在宅看護論実習 老年看護学実習 健康状態別実習(周術期看護実習・健康回復期看護実習・ 終末期看護実習・健康保持増進看護実習) 母性看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習 総合実習

※領域横断とは、健康の保持増進や疾病の予防、健康の回復、周術期、薬物療法、看護展開の方法について、全ての領域を横断させて学ぶものであり「健康状態別看護」として6科目の構成としている。

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	坂本 真由美
科目名	看護学概論 I	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b> 入学前課題でF. ナイチンゲールについて調査したことを、吟味し、深めておきましょう。 授業前に指示した内容に取り組みましょう。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 本科目は看護そのものへの価値を見出し、看護の本質の理解をめざし、すべての看護学を学ぶ上での土台である。看護の対象である人間理解と人を大切に思える気持ち―権利擁護について考え、社会における看護の位置づけと役割を明確にし、看護を思考する態度の導入とする。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応することができる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探求し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法		備考	
1	私たちと看護の位置関係を認識し、看護を学ぶ意味を理解する	講義	LTD	テキスト1(序章)資料	
2	看護の歴史の変遷を知り、看護の役割と機能を理解する	講義		テキスト1(1・7章)資料 DVD	
3	看護の基盤となる主要な概念から、看護とは何かを位置づける (看護におけるメタパラダイム、主な理論家の業績と体系、F. ナイチンゲール『看護覚書』)	講義		テキスト1(1章).2.3資料 DVD	
4	看護の基盤となる主要な概念から、看護とは何かを位置づける(主な理論家の業績と体系、V. ヘンダーソン『看護の基本となるもの』、ニード論、人間関係論、適応理論、セルフケア理論)	講義		テキスト1(1章).2.3資料 DVD	
5	看護の基盤となる主要な概念から、看護とは何かを位置づける (看護におけるケア、看護実践と質の保証)	講義	LTD	テキスト1(1章)、4資料	
6	看護の対象としての人間を理解する (対象理解の基盤、病気が及ぼす「こころ」と「からだ」の影響、成長・発達、生活者として、家族)	講義		テキスト1(2章)、5資料	
7		協同(事例検討)		テキスト1(2章)、5資料	
8	看護の展開、質保障のための思考法を知る (クリティカルシンキング、看護過程、科学的根拠)	講義	LTD	テキスト1(1・5章)、4資料	
9	看護の展開、質保障のための思考法を知り、記述する	講義		テキスト1(1章・5章)、4資料	
10	(リフレクション)	協同(事例検討)		テキスト1(1・5章)、4資料	
11	国民の健康の全体が理解できる (健康の定義、権利としての健康、健康と生活)	講義		テキスト1(3章)資料	
12	看護の提供者について理解できる (職業としての看護、看護職の種類と役割、根拠法、教育制度、キャリア開発)	講義		テキスト1(4章)資料	
13	看護の提供の仕組みが理解できる (看護サービス提供の場と仕組み、医療安全と医	講義		テキスト1(1・6章)資料	

	療の質の保障、看護をめぐる制度と政策)		
14	看護における倫理について理解できる (職業倫理と看護倫理、対象者の権利擁護)	講義 LTD	教科書 1 (5章)、4 資料
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 予習においては該当する章を熟読し、不明な点を明らかにして授業に臨みましょう。毎授業ごとに、振り返りを行いましょ。科目のファイル を準備し、自己学習を含む学習の成果を積み重ねて、整理していきましょ。提出の指示があつた時はファイルごと提出してください。 状況に応じてポストテストを実施します。		<b>評価方法</b> 筆記試験：80点 レポート点：10点 取り組み点：10点	
<b>使用するテキスト</b> 1. 看護学概論 2. 基本的看護技術 I (医学書院 eテキスト) 2. F. ナイチンゲール著 湯楨ます 他訳 看護覚え書 現代社(医書 jp) 3. V. ヘンダーソン著 湯楨ます 他訳 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会(医書 jp) 4. 手島恵監修 看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理 2026年版 日本看護協会出版会 5. 舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版(医学書院 eテキスト)			
<b>参考文献</b> 看護史、看護倫理 (医学書院 eテキスト) 田村由美 池西悦子著 看護のためのリフレクシヨンスキルトレーニグ 看護の科学社 看護六法 2025年度版 新日本法規 舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版 ((医学書院 eテキスト)			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	谷口 留充 田中 佳代子
科目名	看護学概論Ⅱ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b>					
谷口の授業に関する事前学習は開講時に指示します。					
田中の授業では、リフレクションの考え方について看護学概論Ⅰの授業で学んだことを再確認しておく。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
看護専門職としての倫理的感性を養い、看護実践の中で守るべき倫理原則を理解する。また、倫理的問題に気づき、問題解決へ向けたアプローチについて考え学ぶ。また、キャリア形成に必要な看護研究の基礎知識と、研究につながる「種」を見出すためのリフレクションを実践する内容を学ぶ。自ら看護を探求する意義、目的を理解しその基本的姿勢を養うことを主なねらいとしている。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態の変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者として自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探求し続けることができる。				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	倫理とはなにかが理解できる。 (道徳と倫理、倫理と法、倫理の役割)	講義	担当：谷口1 テキスト1・2		
2	看護職に求められる倫理に関する歴史が理解できる。 (人権、患者の権利、看護倫理の歴史)	講義	担当：谷口2 テキスト1・2		
3	生命倫理の基本的な考え方と看護倫理とはなにかが理解できる。	講義	担当：谷口3 テキスト1・2		
4	看護者の倫理原則と看護の役割が理解できる。 (専門職倫理、看護倫理の原則、保健師助産師看護師法と倫理、研究倫理)	講義 グループワーク	担当：谷口4 テキスト 1・2・5・6		
5	看護実践における倫理的問題と問題解決に向けたアプローチ法の概要が理解できる。 (看護実践における倫理的問題の特徴、倫理的ジレンマ、倫理的課題へのアプローチ法)	講義	担当：谷口5 テキスト1・2・6		
6	事例から考える看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際① (ツールを用いたアプローチの検討)	講義 グループワーク	担当：谷口6 テキスト1・2・6		
7	事例から考える看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際② (ツールを用いたアプローチの検討)	講義 グループワーク	担当：谷口7 テキスト1・2・6		
8	看護研究を行う意義が分かる。(看護研究の種類とプロセス、研究倫理と研究者倫理、リフレクションと看護研究)	講義 協同学習	担当：田中1 テキスト1・5 資料		
9	研究における「文献」と「情報」について理解できる (文献の種類、文献検索の方法、文献クリティーク)。情報倫理とAI活用の留意点について理解できる。	講義	担当：田中2 テキスト4・5 資料		
10	リフレクションの定義とGibbs(ギブス)のリフレクション学習サイクルの概観が分かる。	講義	担当：田中 テキスト3 資料		

11	リフレクション学習の基本ステップのポイントが理解できる。	講義 協同学習	担当: 田中 資料
12	実習での看護実践をリフレクションする①	演習 (教室)	担当: 田中 資料
13	実習での看護実践をリフレクションする② プレゼンテーションの方法が分かる	演習 (教室) 講義	担当: 田中 テキスト5 資料
14	効果的なプレゼンテーションが実践できる。 自己のリフレクションを発表する。	演習 (教室)	担当: 田中
15	終講試験	筆記試験	
<b>受講上の留意点</b>		<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中では、看護師として実際に立ち会う倫理的ジレンマを事例で考えていきます。倫理的な問題に気づき自分ならどう考えるか、他者の意見も聞きながら主体的に学びましょう。</li> <li>・第12～13回講義で行うリフレクションは、基礎看護学実習Ⅱでの実際の経験をリフレクションします。</li> <li>・第14回講義のプレゼンテーションは、タブレットに備わっている機能ではなく、<u>Microsoft PowerPointの使用を絶対</u>とします。PowerPointのソフトを持っていなくても学校のPCを使用して作成することができます。</li> </ul>		谷口: 授業取り組み状況 (10点) 筆記試験 (40点) 田中: 学習への取り組み状況 (5点)、リフレクションレポート (25点)、筆記試験 (20点)	
<b>使用するテキスト</b>			
1、看護学概論 2、看護倫理 3、基礎看護技術Ⅰ 4、看護情報学 5、看護研究 (医学書院 eテキスト) 6、看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会 7、看護のためのリフレクションスキルトレーニング 看護の科学社			
<b>参考文献</b>			
サラ T. フライ著 看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド 第3版 日本看護協会出版会 田村由美 池西悦子著 看護の教育・実践にいかすりフレクション 南江堂			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	坂本 真由美
科目名	コミュニケーションの基礎	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b> 一般的なマナーについて学習しておきましょう。授業時に指示された内容に取り組みましょう。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 本科目では、対象者やその家族、他の医療職とより良い関係を作り、豊かな看護実践を目指せるよう、人としてのマナー、コミュニケーションの基本から関係形成までのプロセスを学び、援助的人間関係形成について思考し、効果的なコミュニケーション技術の習得をめざす。					
<b>DPとの関連</b>	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応することができる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	社会人として看護学生としてのマナーを理解する (コミュニケーションの手段、構成要素、身だしなみ、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶・対応、マナー)		講義 LTD	テキスト 資料	
2	社会人として看護学生としてのマナーを意識した振る舞いができる		演習：多目的教室・校内施設(一部病院)	テキスト 資料	
3	コミュニケーションの成立過程、特徴と医療・看護におけるコミュニケーションが理解できる(コミュニケーションの意義と目的、基本的態度、患者・医療者関係、信頼されるということ)		講義 LTD	テキスト1.2 資料	
4	人間関係構築のためのコミュニケーションの基本が理解できる(聴き方、伝え方、話し方、寄り添う態度の前提、ミスコミュニケーション)		講義 ポストテスト	テキスト1.2 資料 DVD	
5	人間関係構築のためのコミュニケーションの基本が理解できる(接近的行動と非接近的行動、パーソナルスペース)		講義 ポストテスト	テキスト 資料	
6	看護専門職者としての人間関係形成過程の振り返りについて理解できる(プロトコル)		講義	テキスト2 資料	
7	人間関係構築のためのコミュニケーションの基本を実践に活用できる。(接近的行動の実際、パーソナルスペースの確認)		演習：実習室	テキスト 資料	
8	看護専門職者としての人間関係形成過程の振り返りについて理解し、活用できる。 (7次の演習場면을プロトコルで振り返る)		協同(プロトコルの検討)	テキスト2 資料 各自のプロトコル	
9	効果的なコミュニケーションについて理解できる(傾聴の技術、情報収集の技術、説明の技術、アサーティブ)		講義	テキスト1.2 資料 DVD	
10	効果的なコミュニケーションについて思考し、実際に活用できる		演習(ロールプレイ)：実習室	テキスト 資料	
11	コミュニケーションに障害にある人への対応が理解できる(身体の機能との関連、失語症、構音障害、伝音・感音・神経伝達に障害、認知症、意識障害のある人への対応)		講義 ポストテスト(身体の機能)	テキスト2 資料	
12	チームメンバーの一員としての行動を思考し、実践することができる(報告・連絡・相談)		講義 演習：多目的教室	テキスト 資料	
13	チームメンバーの一員としての行動を思考し、実践することができる(討議法、カンファレンス)		講義 演習：多目的教室	テキスト 資料	

14	看護における相互作用と役割について理解できる (ケアの原点、援助的人間関係、対話的關係)	講義 LTD	テキスト1 資料
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 予習においては教科書の該当ページを熟読し、わからないことを明らかにして、授業に臨みましょう。関連動画は必ず視聴してから授業に臨みましょう。毎授業後、成長・アクションエントリーシートを提出してください。科目のファイルを準備し、自己学習を含む学習の成果を積み重ねて、整理していきましょう。終講試験後、および提出の指示があった時はファイルごと提出してください。状況に応じてポストテストを追加実施します。		<b>評価方法</b> 筆記試験：70点 レポート(プレゼンテーション含む)：20点 取り組み：10点	
<b>使用するテキスト</b> 1. 基礎看護技術 I 2. 人間関係論 (医学書院 eテキスト) 3. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第4版 (医学書院 eテキスト)			
<b>参考文献</b> V. ハンター著 湯楨ます・小玉香津子訳, 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会(医書 jp) 大森武子他著 仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス 医歯薬出版株式会社 その他講義中に紹介			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1 年次	担当講師	安達 文佳
科目名	ヘルスアセスメント	単位数	1 単位		
		時間数 (回数)	30 時間 (15 回)		
<b>事前学習内容</b>					
授業時に講師に指示された内容に取り組む					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
看護は身体と心の両面に働きかける実践であり、人間を科学的かつ全人的に捉える視点が求められる。対象者の健康状態を見極めるために、「おや？」という気づきをもとに身体的・心理的・社会的側面を統合して理解することが重要である。生命徴候の仕組みと観察・測定技術、フィジカルアセスメントの基礎を学び、得られた情報を統合してヘルスアセスメントを行う方法を学ぶ。					
DP との 関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	ヘルスアセスメントの意義と目的を理解できる (主観的情報・客観的情報、問診、報告、記録)		講義	テキスト1・2 資料	
2	フィジカルイグザミネーションの基本手技を説明し、実施できる (視診・触診・打診・聴診)		講義 演習 (多目的室)	テキスト2 資料	
3	身体計測を正確に実施し、結果の意味を説明できる (身長・体重・胸囲・腹囲・BMI・基準値)		講義 演習 (実習室)	テキスト1・2・3 技術チェックリスト	
4	バイタルサインの意味と生理的メカニズムを説明できる (意識・体温・脈拍・呼吸・血圧)		講義	テキスト1・2 資料	
5	体温・脈拍・呼吸の測定を正確に実施し、結果を報告できる (測定技術・正常値・観察ポイント)		演習 (実習室)	テキスト1・2 技術チェックリスト	
6	血圧測定を正確に実施できる (測定技術・コロトコフ音)		講義 演習 (多目的室)	テキスト1・2 技術チェックリスト	
7	バイタルサインを一連で実施し、正常・異常を判断し、根拠をもって報告できる (統合・アセスメント・報告)		演習 (実習室)	テキスト1・2 技術チェックリスト	
8	日常生活を支える身体機能のアセスメントを実施し、正常な所見を理解し、その意味を説明できる (循環・脳神経・感覚)		演習 (実習室)	テキスト1・2 技術チェックリスト	

9	呼吸のアセスメントを実施し、正常な所見を理解し、その意味を説明できる（呼吸音・胸郭運動・SpO2）	演習（実習室）	テキスト1・2 技術チェックリスト
10	運動機能のアセスメントの基本的な方法と基準を理解し、実施し、生活動作との関連を説明できる（徒手筋力テスト（MMT）、関節可動域、歩行）	演習（実習室）	テキスト1・2 技術チェックリスト
11	摂食・排泄に関わるアセスメントを実施し、正常な所見を理解し、その意味を説明できる（口腔、腹部の観察、腸蠕動音）	演習（実習室）	テキスト1・2 技術チェックリスト
12	心理・社会的側面の情報収集の視点を説明できる（心理状態、生活背景、社会的役割）	講義	テキスト1・2
13	事例を用いて対象者を理解し、必要な観察項目と観察方法を根拠をもって計画できる（情報の関連づけ、観察項目の選択、観察方法の検討）	演習（教室） 協同学習	テキスト1・2 演習ワーク
14	事例をもとに問診およびフィジカルアセスメントを実施し、得られた情報を正確に報告し、対象者の状態を判断できる（問診・フィジカルイグザミネーション・情報収集・報告・アセスメント）	演習（実習室） 協同学習	テキスト1・2 演習ワーク
15	終講試験		ファイル提出
<b>受講上の留意点</b> 解剖生理学や疾病論など、他の科目の内容と関連づけて学習を進めてください。観察・測定技術は、根拠を理解し繰り返し練習することで身につきます。授業や演習の時間を大切に、計画的に取り組ましましょう。 また、対象者を想定した演習を行います。技術の実施にとどまらず、「対象者が目の前にいる状況」を意識し、対象者役・看護者役双方の立場から取り組みましょう。		<b>評価方法</b> バイタルサイン技術試験（レポート含む）：20点 筆記試験：50点 授業への取り組み：30点（演習・振り返り・技術チェックリスト）	
<b>使用するテキスト</b> 1. 基礎看護技術 I 3. 【からみた】基礎・臨床看護技術（医学書院 eテキスト） 2. 看護がみえる vol3 フィジカルアセスメント メディックメディア			
<b>参考文献</b> 解剖生理学 病態生理学（医学書院 eテキスト） 看護形態機能学（医書.jp） 山内豊明著 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 日常生活行動からみるヘルスアセスメント 日本看護協会出版会 時実利彦著 人間であること 岩波新書			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1 年次	担当講師	福田 裕里加 小椋 貴文
科目名	療養生活を支える 援助技術 I	単位数	1 単位		
		時間数 (回数)	30 時間 (15 回)		
<b>事前学習内容</b>					
<p>講義する範囲のテキストを一読すること、また動画視聴して授業に臨む。</p> <p>各技術演習の前には、技術チェックリストを確認しておく。</p>					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
<p>人間の健康と環境の関わりを学び、基本的看護技術として対象者の安全・安楽の観点から、ベッド及びその周囲、さらに療養環境・医療環境全体の調整法を学ぶ。そして、病床環境を気持ちよく整え、医療物品の一つひとつまで有害微生物・危険物を除去し、対象者を守るための援助技術を身につける。また、人間にとって運動すること・活動すること、休息することの意義をふまえた援助技術の習得をめざす。</p>					
DP との 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	対象者に合わせた援助について知ることができる 対象者に合わせた環境を整える援助技術の実際 (移乗・移送の援助、ベッドの清潔・周りの整理 整頓、ベッドメイキング)		講義 演習 (実習室)	担当：小椋・福田 1 テキスト 1・2・3 資料	
2	療養生活の安全確保が理解できる 安全を阻害する因子と医療安全対策		講義	担当：福田 2 テキスト 1 資料	
3	感染予防対策が理解できる 感染の成立と標準予防策の考え方と内容 感染経路別予防策		講義 演習 (実習室)	担当：福田 3 テキスト 1 資料	
4	滅菌物の取り扱いの基本と感染性廃棄物の取り 扱いが理解できる 滅菌物の取り扱い (無菌操作) 感染性廃棄物の取り扱い		講義 演習 (実習室)	担当：福田 4 テキスト 1 資料	
5	環境について考え、環境と健康の相互 作用、入院 患者の環境が理解できる 環境の相互作用、環境・安全のニード 療養環境 (病室・病床、生活・心理面への影響)		講義 演習 (実習室)	担当：福田 5 テキスト 2・3・4 資料	

6	病室の環境のアセスメントと病床環境を整える 目的・方法が理解できる 快適な環境、療養環境を整える援助の目的 (環境整備、ベッドメイキング、リネン交換)	講義 演習 (実習室)	担当：福田 6 テキスト 2・3 資料
7	ベッドメイキングの方法が理解でき、一人で安全 で安楽なベッドを作成できる 基本的なベッドメイキングの方法と実際	演習 (実習室)	担当：福田 7 テキスト 2・3 資料
8	活動・休息の意義とメカニズム、援助方法が理解できる 意義、メカニズム、アセスメント、援助	講義	担当：小椋 2 テキスト 2・3・4 資料
9	各種体位の特徴と移動の援助方法が理解できる 姿勢と体位、ボディメカニクスの基本 体位変換、歩行、移乗・移送の援助	講義 演習 (実習室)	担当：小椋 3 テキスト 2・3 資料
10	安全・安楽・自立を考慮した移動の援助が実施できる 体位変換、車椅子移乗・移送援助の実際	演習 (実習室)	担当：小椋 4 テキスト 2・3 資料
11	身体ケアによる安楽への援助が理解できる 身体機能にはたらきかける安楽技術	講義 演習 (実習室)	担当：小椋 5 テキスト 2・3・4 資料
12	体位保持の基礎知識と援助の実際が理解できる 体位保持の実際	講義 演習 (実習室)	担当：小椋 6 テキスト 2・3 資料
13	褥法の基礎知識と援助の実際が理解できる 褥法の実際	講義 演習 (実習室)	担当：小椋 7 テキスト 2・3 資料
14	環境整備の援助方法を理解し、対象者に合わせた 援助方法を考え、実施できる 対象者に合わせた環境を整える援助技術の実際 (安全・安楽を考慮した体位変換、ベッドの 清潔・周りの整理整頓、ベッドメイキング)	演習 (実習室)	担当：小椋・福田 8 テキスト 1・2・3 資料
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 看護者としての姿勢と実習室は病室であるという認識を常に持ち、実際の対象者をイメージしながら演習を行う。演習の取り組みは、学習活動自己評価尺度を活用して振り返り、自己の課題を明確にして次の学習に活かす。状況に応じて、レポート課題を提示します。(取り組み点で評価) 技術確認では、感染予防対策として「手指衛生/防護用具装着脱」、移動の援助として「車椅子移乗 (体位変換)」を行います。(各 10 点ずつ)		<b>評価方法</b> 筆記試験 70 点 技術確認 20 点 取り組み点 10 点	
<b>使用するテキスト</b> 1. 基礎看護技術 I 2. 基礎看護技術 II 3. [からみた] 基礎・臨床看護技術 (医学書院 e テキスト) 4. 看護の基本となるもの (医書 jp)			
<b>参考文献</b> 臨床看護総論 微生物学 (医学書院 e テキスト) 看護形態機能学 ベッドサイドを科学する 看護につながる解剖生理 (医書 jp) 看護技術プラクティス Gakken 秋葉公子 他 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューヴェルヒロカワ			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	大海貴子・福田裕里加
科目名	療養生活を支える 援助技術Ⅱ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
事前学習内容 授業時に講師より指示された内容に取り組む。					
科目全体のねらい・授業目標 療養生活に働きかける援助の意義を理解し、「体をきれいにし、適切な衣類をまとうこと」「食べること」「排泄すること」の意味をふまえた援助とその技術について学ぶ。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
授業の流れ					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	療養生活を支える援助技術の意義と役割がわかる (清潔・食事・排泄の生理的・心理的・社会的意義、援助者に求められる基本的姿勢)		講義	担当：大海1 テキスト1	
2	清拭・寝衣交換の意義と基本・方法がわかる (全身清拭・衣交換の意義と方法・寝衣交換(セパレート)の方法)		講義 演習(実習室)	担当：大海2 テキスト1.2 看護技術チェック表	
3	全身清拭の方法がわかり、根拠を理解しながら実施ができる (部分的清拭)		演習(実習室)	担当：大海3 テキスト1.2 看護技術チェック表	
4	全身清拭・衣交換の方法がわかり、根拠を理解しながら実施ができる (全身清拭の一連の流れ、全身清拭を行いながらの寝衣交換)		演習(実習室)	担当：大海4 テキスト1.2 看護技術チェック表	
5	部分浴の方法がわかり、根拠を理解しながら実施ができる(ベッド上での手浴・足浴)		演習(実習室)	担当：大海5 テキスト1.2 看護チェック表	
6	洗髪の方法がわかり、根拠を理解しながら実施ができる(ベッド上でケリーパッドを使用した洗髪)		演習(実習室)	担当：大海6 テキスト1.2 看護チェック表	
7	口腔ケアの方法がわかり、根拠を理解しながら実施ができる(ガーグルペイスンを使用した口腔ケア)		演習(実習室)	担当：大海7 テキスト1.2 看護技術チェック表	
8	排泄の意義と援助の基本がわかる (排泄の意義、排泄のメカニズムとアセスメント、床上排泄援助の基礎知識)		講義	担当：福田1 テキスト1.2 看護チェック表	

9	自然排泄を促すための方法がわかり、根拠を理解しながら実施ができる (便器・尿器を使用した床上排泄への援助)  自然排泄後の清潔を保つ方法がわかり、根拠を理解しながら実施ができる (ベッド上臥床患者への陰部洗浄)	演習 (実習室)	担当：福田 2 テキスト 1.2 看護技術チェック表
10	排便を促すための方法と実際がわかる (グリセリン浣腸)	演習 (実習室)	担当：福田 3 テキスト 1.2 看護チェック表
11	自然排泄が困難な対象者への援助方法がわかり実施できる (間欠的導尿 (女性))  膀胱留置カテーテルの固定と管理の実際がわかる	演習 (実習室)	担当：福田 4 テキスト 1.2 看護技術チェック表
12	食生活の意義と援助の基本がわかる (身体の機能と食のプロセス、食事と栄養の意義、健康障害と食事、食事摂取援助の基本)  経管栄養の管理がわかり、胃管挿入ができる	講義 演習 (実習室)	担当：福田 5 テキスト 1.2 看護技術チェック表
13	食事援助が必要な患者への食事介助の方法がわかり、実施ができる (床上での食事介助)	演習 (実習室)	担当：福田 6 テキスト 1.2 看護技術チェック表
14	対象の状態に合わせた援助ができる (床上での食事介助) ※食事・清潔・安楽を考えた援助※	演習 (実習室)	担当：大海 8・福田 7 テキスト 1.2 看護技術チェック表
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習や事前練習を十分に行い、主体的に授業・演習に臨む。</li> <li>・テキストや技術チェックリストを確認しながら学習をすすめる。</li> <li>・学習自己評価尺度を活用し、演習の取り組みの振り返りを行い自己の課題や目標を明確にし、次の学習に活かす。</li> <li>・看護者としての姿勢と実習室は病室であるという認識を常に持ち、実際の対象者をイメージしながら演習を行う。</li> <li>・技術試験 (寝衣交換 (セパレート)・足浴) がある。十分な練習を積んで試験に臨む。</li> </ul>		<b>評価方法</b> 技術試験 20 点 (10 点×2)  筆記試験・取り組み 課題・レポート・ファイル	
<b>使用するテキスト</b> 1. 基礎看護技術Ⅱ (医学書院 eテキスト) 2. 看護技術プラクティス Gakken			
<b>参考文献</b> 基礎看護技術Ⅰ リハビリテーション看護 (医学書院 eテキスト) 看護がみえる 基礎看護技術 メディック・メディア			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1 年次	担当講師	杉垣 ひとみ
科目名	看護展開方法の基礎	単位数	1 単位		
		時間数 (回数)	30 時間 (15 回)		
<b>事前学習内容</b>					
授業 3 回目までに「看護の基本となるもの」を読み、基本的欲求について学習する。10 回目の授業までに気胸の病態と治療・看護について学習する。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
看護は「対象者の健康の保持増進、疾病の予防、健康回復及び苦痛の緩和を行い、生涯通して、その人らしい生を全うすることができるよう身体的、精神的、社会的に支援することを目的としている。」このような看護を展開するためには思考法を身につける必要がある。					
対象に最もふさわしい看護を意図的・系統的に、かつ科学的・効果的に行うために、その手段・方法の基盤となる考え方をハンダーソン看護論による枠組みを理解しながら学ぶ。					
DP との 関連	DP1 看護の対象である人間を 身体的・精神的・社会的側面 から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する 看護を健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	看護過程の意義と看護展開するための基盤となる考え方が理解できる① 看護とは 対象の捉え方 クリティカルシンキング リフレクション 臨床判断	講義	テキスト1 参考文献(看護学概論)		
2	看護過程の意義と看護展開するための基盤となる考え方が理解できる② 看護理論とアセスメントの枠組み	講義	テキスト1		
3	看護過程の構成要素が理解できる① アセスメント	講義	テキスト1		
4	看護過程の構成要素が理解できる② ハンダーソン看護論	講義グループワーク	テキスト1.5		
5	看護過程の構成要素が理解できる③ 対象者の全体像を捉える	講義 協同学習	テキスト1 資料		
6	看護過程の構成要素が理解できる④ 関連図	講義 協同学習	テキスト1 資料		
7	看護過程の構成要素が理解できる⑤ 看護問題の明確化	講義	テキスト1		
8	看護過程の構成要素が理解できる⑤ 計画立案・実施・評価	講義	テキスト1		
9	看護記録の目的と機能、看護記録の記載方法が理解できる	講義	テキスト1		
10	筆記試験 (45 分) 紙上患者の看護過程が展開できる①	事例演習	テキスト1~5 資料		
11	紙上患者の看護過程が展開できる②	事例演習	テキスト1~5		
12	紙上患者の看護過程が展開できる③	事例演習	テキスト1~5		
13	紙上患者の看護過程が展開できる④	事例演習	テキスト1~5		
14	紙上患者の看護過程が展開できる⑤	事例演習(実習室)	テキスト1~5 実習服		
15	紙上患者の看護過程が展開できる⑥	事例演習	テキスト1~5		
<b>受講上の留意点</b>				<b>評価方法</b>	
授業で学習したことを個人学習し「できる」ようになる取り組みをしてください。1 月の基礎看護学実習Ⅰで対象理解～アセスメントができる能力が必要です。1 回 1 回の授業を大切にコツコツ学習に取り組みましょう。10 回目の授業は、1 時間筆記試験と 1 時間事例演習です。事例演習の成果物を課題とします。指定日に提出されたものを評価します。10 回～15 回までの事例演習の詳細は授業で説明する				筆記試験 55 点 事例演習取り組み 35 点 学習態度 10 点	
<b>使用するテキスト</b>					

シラバス 専門分野 看護展開方法の基礎 (2)

1. 基礎看護技術 I 2. 解剖生理学 3. 病態生理学 4. 成人看護学 呼吸器系 (医学書院 eテキスト)  
5. 看護過程を使ったハンターソン看護論の実践 6. 看護の基本となるもの (医書.jp)

**参考文献**

看護学概論 (医学書院 eテキスト)

看護がみえる 看護過程の展開 メディックメディア

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1 年次	担当講師	櫻井幸子
科目名	診療の補助技術 I	単位数	1 単位		
		時間数 (回数)	30 時間 (15 回)		
<b>事前学習内容</b>					
各授業で学ぶ内容のテキストの該当箇所を事前に読み、技術動画を視聴する 授業前や授業中に指示したワークを行う					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
現代の医療は高度化している。正確に検査・治療が行われ、治療効果が発揮されることは対象の健康回復・安寧のために重要である。処置には「痛み」が伴う。そのため、看護の役割は正確に処置が行われ身体侵襲に伴う苦痛を最小限となることである。以上をふまえ、正確さと対象の安全・安楽が同時要求される看護技術の習得をねらう					
DP との 関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に対して実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保険医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働ができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探求し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	診療の補助技術の位置づけと安全な技術の提供について理解できる 検査の目的・意義と検査を受ける対象が理解できる	講義 グループワーク	テキスト 1		
2	検査における看護師の役割を考察できる 生体検査の基礎知識が理解できる				
3	検体検査（穿刺）における基礎知識が理解できる				
4	検体採取（尿・便・喀痰）の方法を理解し、採便技術が実施できる	演習（実習室）	テキスト 1.2		
5	血液検査時の血液採取の留意点が説明できる 注射針と注射器の取り扱いの技術が実施できる	演習（実習室）			
6	静脈内採血が実施できる	演習（実習室）			
7	与薬の基礎知識を理解し、看護師の役割を考察できる	講義	テキスト 1		
8	各与薬の方法が理解できる	講義 ジグソー学習			
9	注射法・薬液の準備（アンプル・バイアル）の基礎知識が理解でき、技術が実施できる	講義 演習（実習室）	テキスト 1.2		
10	皮内注射の基礎知識・皮下注射の基礎知識が理解でき、皮下注射が実施できる	演習（実習室）			

11	筋肉内注射の基礎知識が理解でき、技術が実施できる	演習(実習室)	
12	静脈内注射の基礎知識が理解できる 静脈内注射(ワンショット法)が実施できる	演習(実習室)	
13	静脈内注射(翼状針)・点滴管理の基礎知識が理解でき、技術が実施できる	演習(実習室)	
14	輸血療法の基礎知識を理解できる	講義・協同学習	テキスト1
15	終講試験	筆記試験	
<b>受講上の留意点</b> 採血や注射などの針を扱う身体侵襲・危険を伴う授業です。対象や自身の安全・安楽を護るために事前の学習や綿密な準備が必須となります。ワークに取り組み、目的と根拠・留意点を確認しながら進めましょう。実施した技術は必ずチェックリストに戻り、自身の課題を明確にしながら安全・安楽な技術提供を目指しましょう。		<b>評価方法</b> 取り組み状況 ワーク取り組み 筆記試験	
<b>使用するテキスト</b> 1. 基礎看護技術Ⅱ(医学書院 e-テキスト) 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院 e-テキスト)			
<b>参考文献</b> 臨床検査(医学書院 e-テキスト) 薬理学(医学書院 e-テキスト) 看護が見える Vol.2 臨床看護技術 メディックメディア			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	山本智恵子・吉野洋子 細見詩保代
科目名	診療の補助技術Ⅱ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		

## 事前学習内容

講義で学んだ知識を活かして、演習に臨むことができるように事前学習を指示する。

それ以外でも講義の中で指示された内容に取り組む。

## 科目全体のねらい・授業目標

正しく検査が行われ、治療効果が発揮されることは対象者の健康回復・安寧のために重要である。しかし、検査・治療・処置には「痛み」が伴うことが多い。したがって「診療の補助」における看護の役割は正確に検査・処置が受けられること、処置の介助だけではなく、身体侵襲に伴う苦痛を最小限にすることである。これらのことをふまえ本科目では、呼吸を整える技術、創傷管理において、正確さと対象の安全・安楽が同時に要求される検査・治療・処置に伴う基礎看護技術の習得をねらう。

DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる
	DP3 健康の保持・増進・疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	気道管理の基礎知識が理解できる 呼吸のしくみ、加温・加湿、呼吸を整える援助	講義・グループワーク プレテスト	担当：山本智 1 テキスト 1、2 資料
2	酸素吸入療法の基礎知識が理解できる 酸素供給システム、投与方法 酸素残量と使用可能時間計算	講義	担当：山本智 2 テキスト 1、2 資料
3	酸素吸入療法の援助の実際が理解できる 酸素供給システム、投与方法、酸素ポンベの取り扱い、酸素残量と使用可能時間計算	演習(実習室)	担当：山本智 3 テキスト 1、2 資料
4	排痰ケアの基礎知識が理解できる 体位ドレナージ・咳嗽介助・ハフフィング・吸入	講義	担当：山本智 4 テキスト 1、2 資料
5	排痰ケアの援助の実際が理解できる ブライザー吸入 排痰ケアの基礎知識が理解できる 口腔・鼻腔吸引、気管内吸引	演習(実習室) 講義	担当：山本智 5 テキスト 1、2 資料
6	排痰ケアの援助の実際が理解できる	演習(実習室)	担当：山本智 6

## シラバス 専門分野 診療の補助技術Ⅱ (2)

	口腔・鼻腔吸引、気管内吸引		テキスト1、2 資料
7	胸腔ドレナージの基礎知識として、適応、対象の観察、援助の実際について理解できる	講義・協同学習	担当：山本智7 テキスト1、2 資料
8	人工呼吸療法の基礎知識として、概要と目的、対象の観察について理解できる	講義・協同学習 ポストテスト	担当：山本智8 テキスト1、2 資料
9	創傷管理の基礎知識が理解できる 創傷とその治療、創傷治療のための環境作り	講義	担当：吉野1 テキスト1 資料
10	創傷管理の基礎知識が理解できる 創洗浄と創の保護	講義	担当：吉野2 テキスト1 資料
11	創傷管理の処置方法の基本が理解できる 創傷処置、創洗浄と創の保護、包帯法	演習（実習室）	担当：吉野3 テキスト1 資料
12	褥瘡予防の基礎知識が理解できる 発生の機序、好発部位、評価	講義	担当：吉野4 テキスト1 資料
13	褥瘡予防の処置方法の基本が理解できる 体位変換、ポジショニング、体圧測定	演習（実習室）	担当：吉野5 テキスト1 資料
14	褥瘡予防法の基礎知識が理解できる スキンケア	講義	担当：細見1 テキスト1 資料
15	終講試験	筆記	
<b>受講上の留意点</b> 診療に関する看護技術を学習しますが、安全に看護を提供するためには、根拠の理解が重要となります。予習・復習を行い、学習を積み重ねて主体的に学習に取り組んでいきましょう。 最終、学習ファイルの提出をもとめます。		<b>評価方法</b> 吉野講師：配点40点 山本智：配点60点 (筆記試験40点、学習の取り組み20点)	
<b>使用するテキスト</b> 1. 基礎看護学3 (医学書院 eテキスト) 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 (医学書院)			
<b>参考文献</b> 写真でわかる 臨床看護技術② アドバンス インターメディカ			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	田中佳代子
科目名	臨床看護総論 I	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		

## 事前学習内容

事例学習では「呼吸器」に関する人体の構造と機能、疾病と治療に関する知識が必要です。他の科目で学習したことを活かして事前準備をしておいて下さい。

## 科目全体のねらい・授業目標

専門基礎分野の解剖生理学・病態生理学・看護につながる疾病論で学んだ臨床判断能力の基盤となる学習内容を活用し、一段階ステップアップした臨床判断のための思考を育成することを目的とした科目である。臨床の場(看護活動の場)とはどのようなものなのかを学んだ上で、臨床判断モデルのプロセスである「気づき」→「解釈」→「反応」→「省察」の4つのフェーズの、「気づき、解釈する」段階を学ぶ内容とする。

DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	「臨床(看護の場)」の特徴と看護がイメージできる。 ライフサイクル各期における看護の概要が分かる。	講義	テキスト1 資料
2	対象の状況に応じた臨床判断の必要性① 健康状態各期における対象の特徴と看護の概要が分かる。	講義 協同学習	テキスト1 資料
3	対象の状況に応じた臨床判断の必要性② 治療や処置を受ける対象の特徴と看護の概要が分かる。(輸液療法、創傷処置)	講義 協同学習	テキスト1・2 資料
4	タナーの臨床判断のプロセスの考え方が分かる。 臨床判断プロセスをたどり、主要症状を示す対象(事例)の状態を理解する①(呼吸困難の症状を示す対象の状況に「気づく」、疾患・症状・治療の関連づけ)	講義 演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・3 資料
5	臨床判断プロセスをたどり、主要症状を示す対象(事例)の状態を理解する②(呼吸困難の症状を示す対象の状態を「解釈」する)	講義 協同学習	テキスト1・3 資料
6	臨床判断プロセスをたどり、主要症状を示す対象(事例)の状態を理解する③(対象の状況の解釈を促進させるための情報収集)	講義 演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1
7	臨床判断プロセスをたどり、対象に必要な援助を導き出す。 (解釈したことを踏まえて必要な看護援助を明らかにする)	講義 協同学習	テキスト1
8	終講試験		試験時学習ファイル持ち込み可

<b>受講上の留意点</b> 人体の構造と機能を理解するために作っているポートフォリオが活用できるように準備をして授業に臨んでください。	<b>評価方法</b> 筆記試験 (65 点) 学習への取り組み状況 (25 点) 協同学習への参加状況 (10 点)
<b>使用するテキスト</b> 1. 臨床看護総論 2. 基礎看護技術 II (医学書院 e テキスト) 3. 看護過程に沿った対症看護 (医書 jp)	
<b>参考文献</b> 看護学概論、解剖生理学 I、薬理学、呼吸器、[からみた] 基礎・臨床看護技術 (医学書院 e テキスト) 看護形態機能学 (医書 jp) 生体のしくみ 標準テキスト新しい解剖生理 医学映像教育センター	

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	田中佳代子
科目名	臨床看護総論Ⅱ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b>					
<p>事例学習では「COPD」「誤嚥性肺炎」「脳梗塞」に関連する知識が必要です。</p> <p>他の科目で学習したこと(1年次に学習したことも含む)を活かして事前準備をしておいて下さい。</p>					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
<p>本科目は、臨床判断能力を育成することを目的とした科目である。1年次の臨床看護総論Ⅰで学んだ臨床判断能力の基盤となる学習内容を活用し、更にもう一段階ステップアップした臨床判断のための思考を育成することをねらう。臨床の場で、看護師がどのようなことに「気づき」、「解釈し」、「看護を実施し」、「それを改善し」、さらに対象者を深く理解した看護を行っていくのか、という臨床で行われる看護に必要な判断の全てのプロセスを踏む中で、“看護師のように考える”方法を学ぶ内容とする。</p>					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	看護における臨床判断の必要性が理解できる。(看護職の役割の拡大、タナーの臨床判断モデル)		講義	テキスト1 資料	
2	臨床判断における「気づき」の重要性が理解できる。(気づきのトレーニング、間違い探し演習)		講義 演習(実習室)	テキスト1 資料	
3	事例の状況に「気づき、解釈する」① 事例の状況の変化に気づき、状態を推論するための情報を集めることができる。(変化への気づき、観察と情報収集、		演習(教室) 協同学習 シミュレーション学習	テキスト1 資料	
4	事例の状況に「気づき、解釈する」② 事例の状態を科学的根拠に基づいて説明できる。 (コンセプト ①呼吸 ②感染 ③不安)		演習(教室) 協同学習 コンセプト学習	テキスト1 資料	
5	事例の状況に「気づき、解釈する」③ 事例の状態を科学的根拠に基づいて説明できる。 (コンセプト ①呼吸×感染 ②呼吸困難×不安)		演習(教室) 協同学習 コンセプト学習	テキスト1 資料	
6	事例の状況に「気づき、解釈する」④ 事例の対象者の「今」必要な看護援助を考えることができる		演習(教室)	テキスト1	
7	事例の状況に「気づき」「解釈し」「反応する」「省察する」①② 事例の状況に応じた看護援助が実践できる。		協同学習 演習(実習室)	テキスト1・2 資料	
8	行為の中の省察が言語化できる。(リフレクション)		シミュレーション学習		
9	事例の状況に「気づき」「解釈し」「反応する」「省察する」③		演習(教室)	テキスト1・2	

	事例の対象者に行った看護援助の行為の後の省察ができる。 (リフレクション) 臨床判断のプロセスの一連を振り返る。	グループ ワーク	
10	事例の状況に対し、臨床判断の一連のプロセスをたどる① 在宅療養中の対象者の状況に「気づき」「解釈し」「反応する」 ことができる。(観察、情報収集、推論、援助実施の一連を実践 する)	演習(実習室) シミュレーシ ョン学習	テキスト1・2 資料
11	事例の状況に対し、臨床判断の一連のプロセスをたどる② 行為の中の省察を言語化できる。(前回訪問時の「気づき」「解 釈」「反応」の一連を振り返る、解釈しなおす、行為の省察、次 回訪問に向けての方策を検討する)	演習(教室) 協同学習	テキスト1・2
12	事例の状況に対し、臨床判断の一連のプロセスをたどる③ 在宅療養中の対象者の状況に「気づき」「解釈し」「反応し」「省 察する」ことができる。(「変化」に気づく、状況を解釈し必要 な援助を実施する、行為を省察する、次回訪問に向けての方策 を検討する)	演習(実習室) シミュレーシ ョン学習	テキスト1・2
13	事例の状況に対し、臨床判断の一連のプロセスをたどる④ 在宅療養中の対象者の状況に「気づき」「解釈し」「反応し」「省 察する」ことができる。(前回の訪問を踏まえた観察、「変化」 に気づく、状況を解釈し必要な援助を実施する、行為を省察す る、次回訪問に向けての方策を検討する)	演習(実習室) シミュレーシ ョン学習	テキスト1・2
14	臨床判断の一連のプロセスを振り返る。 「気づき」「解釈」「反応」についてリフレクションする。 事例の状況に対する最善の看護援助を検討する。	講義 演習(教室) グループ ワーク	テキスト1・2 資料
15	終講試験 (筆記試験は60分 残りの30分は復習・ファイルの整理)		試験時学習ファ イル持ち込み可
<b>受講上の留意点</b> 協同学習を主体とした授業を行います。各自が事前・事後学習を確 実に行わなければ授業が成り立ちません。学習者としての責任を果 たすことを意識して授業に臨んでもらえることを期待します。		<b>評価方法</b> 筆記試験(50点) 知識確認テス ト(30点) レポート(10点) 学習への取り組み状況(10点)	
<b>使用するテキスト</b> 1. 臨床看護総論 2. 基礎看護技術 I (医学書院 eテキスト) 3. 看護過程に沿った対症看護 (医書 jp)			
<b>参考文献</b> 看護学概論、地域・在宅看護の基礎・実践、呼吸器、脳神経、老年看護病態・疾病論、解剖生理学 I、 病理学、薬理学、微生物学、[からみた] 基礎・臨床看護技術、地域・在宅看護過程 (医学書院 e テキ スト) 看護形態機能学 (医書 jp) 生体のしくみ 標準テキスト新しい解剖生理 医学映像教育センター			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	坂本 真由美 養父市 大林賢一 市長
科目名	地域と地域で暮らす 人々の健康	単位数	2単位		
		時間数(回数)	45時間(23回)		
<b>事前学習内容</b> テキスト1のP7とP9とP11の『イメージをふくらませよう』に取り組みましょう。自分の出身地域の特徴 学校所在地域の特徴について調べておきましょう。家族の生きてきた時代背景と自分の生活との違いを調べておきましょう。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 本科目では、地域について知り、地域で暮らす人々の理解を深め、地域の生活環境が健康に与える影響を捉え、健康な生活について学ぶ。但馬地域について調査し、但馬地域の特徴を理解する。また、育児支援活動、教育機関、企業、病院、診療所、高齢者の地域交流活動の場に出向き地域で暮らす人々と様々な看護の場について理解を深める。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応することができる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法		備考	
1	地域・在宅看護論を学ぶ意義、地域で生活するある1家の暮らし・生活を理解する (地域・在宅看護の基盤、対象、暮らしとは)	講義		担当：坂本1 テキスト1 資料	
2	地域で生活するある1家の暮らしを理解する (環境と健康・家族・支えあい)	講義 LTD		担当：坂本2 テキスト1 資料	
3	暮らしの基盤の地域の特徴を理解することができる (但馬地域の自然環境、社会環境、生活環境、地域の特性と暮らし)	調査		担当：坂本3 テキスト1 資料	
4	暮らしの基盤の地域の特徴を理解することができる (養父市の特徴と暮らし) 但馬地域、養父市に暮らす人々の生活について暮らしについて発表	発表：プレゼンテーション		担当：坂本4 資料	
5	地域で生活する人々の生活・健康意識と実態について明らかにしたい視点を抽出できる	講義 協同学習		担当：坂本5 テキスト1 資料	
6	地域で生活する人々の生活・健康意識と実態について明らかにする (インタビューガイドを用いて模擬インタビューの実施)	演習：学校敷地内の校外 (インタビュープレ実施)		担当：坂本6 資料	
7	地域で生活する人々の生活・健康意識と実態について明らかにして情報収集することができる。 (街頭インタビューの実施)	フィールドワーク(街頭インタビュー)		担当：坂本7 資料	
8	地域で生活する人々の生活・健康意識と実態について明らかにして情報収集することができる。 (街頭インタビューの実施)	7次が天候不良の場合、フィールドワーク(街頭インタビュー)		担当：坂本8 資料	
9	地域で生活する人々の生活・健康意識と実態について収集したデータについて思考し、その特徴を説明する。	協同学習		担当：坂本9 資料	
10	養父市2050ビジョンから考える暮らしと健康課題を理解する	特別講義		担当：養父市長1 資料	
11	インタビュー結果から、地域で生活する人々の生活・健康課題について自己の考えを述べる	発表：プレゼンテーション		担当：坂本10 資料	
12	健康を支える社会の仕組みと看護活動の場が理解できる (発達段階に応じた社会の仕組み、発達に応じた健康課題)	講義 グループワーク		担当：坂本11 テキスト1.2.3 資料	

13	健康を支える社会の仕組みと看護活動の場を理解する(生活を支える社会の仕組みと養父市の特徴)	講義 グループワーク	担当: 坂本 12 テキスト 1.2.3 資料
14	養父市の地域包括ケアシステムを担う施設を知ることができる。(マッピング、) 地域包括ケアの実際)	講義 グループワーク	担当: 坂本 13 テキスト 1.2.3 資料
15	市民の暮らしを支える社会、地域包括ケアシステム、働く看護職を支える仕組みを知ることができる、(但馬長寿の郷の役割、地域ケアセミナー、ナースセンター)	講義 演習: 但馬長寿の郷 郷ホールなど	担当: 坂本 14、15 資料
16			
17	地域で暮らす人々の医療・保健・福祉に関わる施設 地域における様々な看護活動を知ることができる (養父市で暮らす人々の生活を支える場のマッピング、看護職の働く場のマッピングと機能、地域ラウンド計画)	講義 協同学習	担当: 坂本 16 テキスト 1.2.3 資料
18	働く人の健康を支える仕組みと看護の場、誕生から最期を迎えるまで、地域で生活する人々を支える仕組みと看護の場の実際を理解する(企業・行政・病院・診療所・健康センター・社会復帰を目指す場、高齢者福祉施設・子育て広場、成長を支援する場)	フィールドワーク: 施設訪問	担当: 坂本 17 テキスト 1.2.3 資料
19	住み慣れた地域で暮らし続けることを支える仕組みと看護の場を知ることができる(フィールドワークのまとめ)	18次が天候不良の場合、フィールドワーク: 施設訪問	担当: 坂本 18 テキスト 1.2 資料
20	健康を支える看護の場、急激な健康破綻時の看護の場の特徴を知ることができる(病院の種類と機能、病院で働く多職種の種類)	講義 グループワーク	担当: 坂本 19 テキスト 1.2.3 資料
21	健康を支える看護の場、急激な健康破綻時の看護の場の実際、病院で働く多職種の実際を理解することができる。	フィールドワーク: 施設訪問 (公立八鹿病院)	担当: 坂本 20 資料
22	健康を支える社会の仕組みと看護の役割について、自己の考えを説明できる。	発表: プレゼンテーション	担当: 坂本 21 テキスト 1.2.3 資料
23	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 養父市長の講義は講義日程が変更になることもあります。活動の多い授業となります。時間管理を行って、しっかり準備をして、取り組みましょう。科目のファイルを準備し、自己学習を含む学習の成果を積み重ねて、整理していきましょう。終講試験後、および提出の指示があった時はファイルごと提出してください。地域ケアセミナーについては別途説明します。		<b>評価方法</b> 筆記試験: 30点 プレゼンテーション: 30点 レポート: 30点 取り組み: 10点 *プレゼンテーション、レポートの評価はグループリック評価です。	
<b>使用するテキスト</b> 1. 地域・在宅看護の基盤 2. 地域・在宅看護の実際 3. 看護学概論 (医学書院 eテキスト)			
<b>参考文献</b> 社会保障・社会福祉、看護関係法令 (医学書院 eテキスト) 兵庫県健康づくり推進プラン (第3次) その他授業の中で紹介する			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	山本 智恵子 森田 隆一
科目名	地域・在宅看護概論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
<b>事前学習内容</b> 『地域と・地域で暮らす人々の健康』の学習内容を活用します。整理しておきましょう。 授業前に指示した内容に取り組みましょう。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 本科目では、地域で暮らす地域・在宅看護論の対象と地域の様々な看護の場について理解し、看護の基盤となる基本的な概念について学ぶ。また、看護の基本となる視点と対象へのアプローチ法の基本について学び、地域・在宅看護に求められる基本姿勢とする。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応することができる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	地域・在宅看護論の対象と健康と暮らしを支える看護について理解できる (地域・在宅看護に求められる基本姿勢、権利擁護、パートナーシップ、多職種・多機関連携、意思決定支援、自立支援、ケアマネジメント、多様な生活の場・家族・健康レベル・発達段階・健康障害)		講義	担当：山本1 テキスト1.2 資料	
2	対象と家族に応じた地域の様々な看護の場と、地域包括ケアシステムにおける看護の役割について理解できる。(地域共生社会、地域包括ケアシステム、病院、診療所、居宅(自宅、施設)、療養通所介護事業所、訪問看護事業所、看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、地域包括支援センター、介護施設、老人保健施設など)		講義	担当：山本2 テキスト1.2.3 資料	
3	地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策が理解できる(医療保険・介護保険制度と施策、訪問看護に関する法と制度、権利保障に関する法と制度、各保健・障害者等に関する法と施策、年金など)		講義	担当：山本3 テキスト1.2 資料	
4	地域・在宅看護の基盤となる概念が理解できる (養父市の地域包括ケアの実際、養父市での介護支援専門員の活動、連携・協働の実際)		講義 グループワーク	担当：森田1 テキスト1.2 資料	
5	地域におけるケアマネジメントの実際が理解できる (インフォーマルネットワークの維持、地域におけるケアマネジメント、価値観の尊重と意思決定支援、社会参加への援助)		講義 グループワーク	担当：森田2 テキスト1.2 資料	
6	地域で望む生活継続のためのマネジメントが理解できる(ケアマネジメント、リスクマネジメント、症状マネジメント、暮らしと災害、倫理的態度と意思決定支援)		講義 演習(在宅看護室)	担当：山本4 テキスト1.2 資料	
7	地域・在宅看護の視点(予防的視点、家族の視点)とアプローチ法が理解できる。 (ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ、保健信念モデル(ヘルス・ビリーブ・モデル)、		講義	担当：山本5 テキスト1.2.4 資料	

	変化のステージデル、家族発達論、家族システム論)		
8	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 『地域と・地域で暮らす人々の健康』の学習内容を活用します。授業に必要なものは持参して下さい。予習においては教科書の該当ページを熟読し、わからないことを明らかにして、授業に臨みましょう。毎授業後、振り返りを行いましょ。科目のファイルを準備し、自己学習を含む学習の成果を積み重ねて、整理していきましょう。終講試験後、および提出の指示があった時はファイルごと提出してください。4次、5次は養父市の介護支援専門員の講義になります。状況に応じてポストテストを実施します。		<b>評価方法</b> 筆記試験：非常勤講師 30点 山本 50点 課題成果：10点 取り組み：10点	
<b>使用するテキスト</b> 1. 地域・在宅看護の基盤 2. 地域・在宅看護の実践 医学書院 3. 看護学概論 4. 家族看護学（医学書院 eテキスト）			
<b>参考文献</b> 社会保障・社会福祉、看護関係法令（医学書院 eテキスト） 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会 国民の福祉と介護の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	坂本 真由美
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ「健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護」	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b>					
1年次の看護過程の展開の基礎、地域・在宅看護概論で学んだ看護アプローチ法について、十分復習しておく。テキスト1の「序章」～1章齊田家の事例を含め、掲載されている事例を熟読しておく。テキスト5の『はじめに』～『総論』を熟読しておく。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
暮らしの中で行われる看護について、対象を総合的機能をみる視点と強みと弱みをみる視点から捉え、看護展開する思考法と、地域で生活する人々の健康の保持増進に向けた看護に必要な理論を学習し、活用方法を学ぶ。また、看護の対象となる家族について理解し、看護方法を学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応することができる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探求し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法		備考	
1	看護に求められる地域の健康支援活動の背景が理解できる。(地域共生社会、地域医療構想、地域包括ケアシステム、自助・互助・共助・公助、0次～3次予防、エンパワーメント、ヘルスプロモーション)	講義 LTD		テキスト1.2.3 資料	
2	健康保持増進・疾病予防、介護予防に向けた理論の活用方法が理解できる(ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ、行動変容ステージモデル、家族発達理論)	講義		テキスト1.2.3.4 資料	
3	健康保持増進・疾病予防、介護予防に向けた理論の活用方法が理解できる(ライフステージに応じた社会資源と健康支援と制度)	講義		テキスト1.2.3 資料	
4	健康保持増進・疾病予防、介護予防に向けた理論の活用方法が理解できる(ICF、問題解決思考と目標志向型思考、ウエルネス思考、セルフケア理論)	講義		テキスト1.2.3 資料	
5	地域・在宅看護実践が理解できる(様々な生活の場で望む暮らしを支える看護の特徴と役割、対象に応じた看護の特徴、訪問看護師の活動の実際)	講義 協同学習		テキスト1.2 資料 DVD	
6	地域・在宅看護実践のための思考法が理解できる(地域・在宅看護における看護過程の展開①:総合的機能の4領域をみる視点、強みと弱みを見る視点、複数の健康障害と心理・社会的課題)	講義 協同学習		テキスト1.2.5 資料	
7	地域・在宅看護実践のための思考法が理解できる(地域・在宅看護における看護過程の展開②:総合的機能の4領域情報整理と解釈)	講義 協同学習		テキスト1.2.5 資料	
8	地域・在宅看護実践のための思考法が理解できる(地域・在宅看護における看護過程の展開③:総合的機能の4領域と全体像、看護課題の明確化)	講義 協同学習		テキスト1.2.5 資料	
9	地域・在宅看護実践のための思考法が理解できる(地域・在宅看護における看護過程の展開④:看護計画の立案)	講義 協同学習		テキスト1.2.5 資料	

10	地域・在宅看護実践が理解できる (生活の場で暮しを支える看護技術と看護師の視点:コミュニケーション、マナー、観察、感染予防、環境調整)	講義 演習(実習室・在宅看護室)	テキスト1.2.6 資料
11	地域・在宅看護実践が理解できる (生活の場で暮しを支える看護技術と看護師の視点:日常生活援助 食・排泄・清潔・移動)	講義 演習(実習室・在宅看護室)	テキスト1.2.6 資料
12	地域・在宅看護実践における多職種連携・協働が理解できる(医療・福祉・介護関係者との連携・協働サービス担当者会議)	講義 ロールプレイ:多目的教室	テキスト1.2 資料 DVD
13	地域・在宅看護実践における多職種連携・協働が理解できる(医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働、地域ケア会議)	講義 ロールプレイ:多目的教室	テキスト1.2 資料 DVD
14	地域・在宅看護実践が理解できる (地域・在宅看護における看護過程の展開⑤:実施と評価 ケアマネジメント、看護の視点、自立支援、倫理的視点)	講義 協同学習	テキスト1.2.5 資料
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 地域・在宅看護における看護過程の展開については、取り組み過程と成果をルーブリックで評価します。協同学習における自己の責任が果たせるよう、誠実に取り組みましょう。毎授業後、成長・アクションシートを提出してください。科目のファイルを準備し、自己学習を含む学習の成果を積み重ねて、整理していきましょう。提出の指示があった時はファイルごと提出してください。状況に応じてポストテストを実施します。		<b>評価方法</b> 筆記試験:50点 課題成果(ルーブリック):40点 取り組み:10点	
<b>使用するテキスト</b> 1. 地域・在宅看護論の基盤 2. 地域・在宅看護論の実践 3. 成人看護学総論 4. 家族看護学(医学書院 e テキスト) 5. 河野あゆみ編集強みと弱みからみた地域・在宅看護過程+総合的機能関連図(医学書院 e テキスト) 6. 任和子編集 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院 e テキスト)			
<b>参考文献</b> 解剖生理学、病態生理学、基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、呼吸器、脳・神経、老年看護学、小児看護学概論、人間関係論 社会保障・社会福祉 看護関係法令(医学書院 e テキスト) 看護がみえる vol13 フィジカルアセスメント メディックメディア 但馬地域の医療職連携ガイドライン その他 授業の中で紹介します			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	小谷 裕都子 中島 登美子 桐山 裕美子
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ「病期に応じた対象者の看護」	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
<b>事前学習内容</b> 授業前に指示した内容に取り組みましょう。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 本科目では、地域で生活する対象者の看護介入時期に応じた看護と継続看護について学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応することができる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	地域・在宅における時期別の看護【地域で暮らす療養者の療養の場移行期の看護が理解できる】(地域から病院へ、病院から地域への移行と看護の役割、訪問看護導入初期、退院準備期 看看連携)	講義	担当：小谷1 テキスト1.2(第3・4章) 資料		
2	地域・在宅における時期別の看護【地域で暮らす療養者の安定期の看護が理解できる】(回復期、リハビリテーション期、維持期の看護の役割)	講義	担当：小谷1 テキスト1.2(第3・4章) 資料		
3	地域・在宅における時期別の看護【地域で暮らす療養者の急性増悪期の看護が理解できる】(急性増悪時の看護、症状観察、医師・医療連携、災害時の看護)	講義	担当：小谷3 テキスト1.2(第3・4章) 資料		
4	地域・在宅における時期別の看護【地域で暮らす療養者の終末期の看護が理解できる】(在宅死のニーズ、ACP、苦痛の緩和、症状マネジメント)	講義	担当：中島1 テキスト1.2(第3・4章) 資料		
5	地域・在宅における時期別の看護【地域で暮らす療養者の在宅療養終了時の看護】(看取り、グリーンケア、多職種連携・協働)	講義	担当：中島2 テキスト1.2(第3・4章) 資料		
6	地域共生社会、地域包括ケアにおける継続看護について理解できる(地域共生社会と地位域完結型の医療、地域・在宅看護の9つの時期、リロケーションダメージの予防、権利擁護と意思決定支援 自立支援)	講義 グループワーク	担当：桐山1 テキスト1.2(5章) 資料		
7	地域共生社会、地域包括ケアにおける継続看護と多職種連携について理解できる(多職種・多機関連携、医療職以外との連携、地域医療連携室の役割の実際)	講義 グループワーク	担当：桐山2 テキスト1.2(5章) 資料		
8	終講試験				
<b>受講上の留意点</b> 予習においては該当するページを熟読し、不明な点を明らかにして授業に臨みましょう。毎授業後、成長・アクションエントリーシートを提出してください。振り返りを行いましょう。科目のファイルを準備し、自己学習を含む学習の成果を積み重ねて、整理していきましょう。提出の指示があった時はファイルごと提出してください。 状況に応じてポストテストを実施します。				<b>評価方法</b> 筆記試験：小谷 40点 中島 30点 桐山 30点	
<b>使用するテキスト</b> 1. 地域・在宅看護の基盤 2. 地域・在宅看護の実践(医学書院 eテキスト)					
<b>参考文献</b> 但馬地域の医療職連携ガイドライン					

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	米田 真弓 上谷エリ子 堀谷由美子 橋本みどり
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅲ「暮らしの場で行われる治療と看護」	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b>					
1年次に学んだ基礎看護技術について十分復習しておきましょう。地域・在宅看護過程について既習内容を取り出せるように準備しておきましょう。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
本科目では、地域で生活する人々とその家族の看護として、暮らしの場で行われる治療と看護について学ぶ。また、地域で生活する人々とその家族の生活を支えるための看護として、あらゆる人々の事例で看護について考え援助方法について検討する。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関する看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応することができる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	在宅療養生活を支える看護が理解できる。 (病期、発達段階、療養の場、家族背景、症状、治療、生活機能、コミュニケーション)	講義	担当：橋本1 テキスト1.2.3 資料		
2	在宅療養者の日常生活における安全管理と治療中の安全管理が理解できる(家屋環境・療養環境の整備、転倒・転落の防止、誤嚥・誤嚥・窒息の防止、熱傷・凍傷の防止、熱中症の防止、薬物療法・輸液療法時の看護師の判断と看護)、	講義	担当：堀谷1 テキスト1.2.4 資料		
3	事例を通して地域で生活する人々とその家族の看護について理解できる (認知症の療養者とその家族の看護)	講義 グループワーク	担当：橋本2.3		
4			テキスト1.2.3 資料		
5	暮らしの中の特殊な排泄の援助が理解できる。 (膀胱留置カテーテル留置中の看護、ストーマ管理、尿路感染の予防、看護師の判断と看護)	講義	担当：堀谷2 テキスト1.2.4 資料		
6	事例を通して地域で生活する人々とその家族の看護について理解できる (難病を抱える療養者とその家族の看護)	講義 グループワーク	担当：橋本4.5		
7			テキスト1.2.3 資料		

8	暮らしの中の呼吸の援助が理解できる。	講義	担当：米田 1.2.3 テキスト 1.2.4 資料
9	(在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法、在宅人工		
10	呼吸療法、肺炎の予防、看護師の判断と看護)		
11	事例を通して地域で生活する人々とその家族の看護について理解できる	講義 グループワーク	担当：橋本 6.7 テキスト 1.2.4 資料
12	(小児期の療養者とその家族の看護)		
13	暮らしの中の水分・栄養の援助が理解できる。	講義	担当：上谷 1.2 テキスト 1.2.4 資料
14	(食事・栄養を促す援助、嚥下の促進、栄養を補う援助、水分を補う援助、褥瘡予防と管理 看護師の判断と看護)		
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b>		<b>評価方法</b>	
<p>予習においては該当する章を熟読し、不明な点を明らかにして授業に臨みましょう。毎授業後、成長・アクションシートを提出してください。科目のファイルを準備し、自己学習を含む学習の成果を積み重ねて、整理していきましょう。提出の指示があった時はファイルごと提出してください。状況に応じてポストテストを実施します。</p>		<p>米田：筆記試験 20点 上谷：筆記試験 15点 堀谷：筆記試験 15点 橋本：筆記試験 45点 取り組み 5点</p>	
<b>使用するテキスト</b>			
<p>1. 地域・在宅看護の基盤 2. 地域・在宅看護の実践(医学書院 e テキスト) 3. 河野あゆみ編集 強みと弱みからみた在宅看護過程+総合的機能関連図(医学書院 e テキスト) 4. 任和子編集 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院 e テキスト)</p>			
<b>参考文献</b>			
<p>解剖生理学、病態生理学、基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、成人看護学総論、呼吸器、脳・神経、老年看護学、老年看護病態・疾病論、小児看護学概論、小児臨床看護各論、がん看護、緩和ケア、臨床薬理学、栄養学、家族看護 (医学書院 e テキスト) 看護がみえる vol3 フィジカルアセスメント メディックメディア</p>			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1 年次	担当講師	小椋 貴文
科目名	成人看護学概論	単位数	1 単位		
		時間数(回数)	15 時間 (8 回)		
<b>事前学習内容</b> 成人期にある人へのインタビュー調査と各発達段階の特徴をまとめておく。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 大人の健康と生活の包括的な理解のためには、時代を生きる大人の健康生活を多角的にとらえる視点を持つ必要がある。本科目では大人の生活と健康に関する基本的知識を基盤とし、大人の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ。					
DP との 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	ライフサイクルからみた成人期の特徴が理解できる	講義・協同学習	テキスト1 資料		
2	各発達段階別の3側面の特徴が理解できる	講義・協同学習	テキスト1 資料		
3	生活者として、社会的存在として理解できる	講義・協同学習	テキスト1 資料		
4	成人期に特有な健康問題の特徴と健康を守る社会システムが理解できる	講義・協同学習	テキスト1 資料		
5	成人期にある対象への看護アプローチの基本が理解できる	講義・協同学習	テキスト1 資料		
6		ロールプレイ(実習室)			
7	療養の場の移行に伴う看護の役割が理解できる	講義	テキスト1 資料		
8	終講試験				
<b>受講上の留意点</b> 協同学習の精神を基盤として、教え合い、学び合い、高め合うことを意識した活動を行きましょう。 状況によって、レポート課題を提示します。(取り組み点として評価)			<b>評価方法</b> 筆記試験 60点 小テスト 10点 取り組み点 30点		
<b>使用するテキスト</b> 1. 成人看護学総論(医学書院 eテキスト)					
<b>参考文献</b> 臨床看護総論(医学書院 eテキスト) 新体系看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論/成人保健 厚生指針増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 舟島なをみ他著 看護のための人間発達学 第5版 医学書院					

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	杉垣ひとみ 西岡智恵美
科目名	成人看護援助論 I	単位数	1単位		
	「慢性的な健康障害をもつ成人の看護」	時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b>					
成人看護学概論で学習した成人期の特徴について復習する。乳癌の病態と治療・看護について学習する。糖尿病の病態と治療・看護について学習する。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
成人期の生活習慣により密かに進行する慢性病に焦点をあて、「病気」とわかった時から、生涯にわたり疾病をコントロールするためのセルフケア行動形成・維持に向けた支援について学習支援を中心に学ぶ。また、現代における慢性疾患の動向を捉え、糖尿病の事例を通して社会的役割が大きい成人が病と共に生きる困難さを理解し支える方法を具体的に学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	慢性病を持つ対象が理解できる① 慢性的な経過をたどる対象の特徴 事例：乳癌	講義 グループワーク	担当：杉垣 1 テキスト		
2	慢性病を持つ対象が理解できる② 病と共に生きる 病みの軌跡	講義 グループワーク	担当：杉垣 2 テキスト		
3	慢性病をもつ対象への看護について理解できる① 看護の目的 看護実践における倫理について考える 事例：糖尿病	講義 グループワーク	担当：杉垣 3 資料		
4	慢性病をもつ対象への看護について理解できる② セルフマネジメントへの支援	講義	担当：杉垣 4 テキスト		
5	慢性病をもつ対象への看護について理解できる③ セルフマネジメントへの支援	講義	担当：杉垣 5 テキスト		
6	慢性病をもつ対象への看護について理解できる④ 生活再構築への支援	講義	担当：杉垣 6 テキスト		
7	慢性病をもつ対象への看護について理解できる⑤ ソーシャルサポート チームアプローチ	講義	担当：西岡 7 テキスト		
8	セルフケア行動形成・維持に向けた支援の実施が理解できる 事例対象者の病態の理解 対象者を理解するための情報について検討	事例演習	担当：西岡 8 杉垣 テキスト 資料		
9	事例対象者への問診実施 - 対象者の心情の理解 コミュニケーションの振り返り -	事例演習(多目的室・実習室)	担当：西岡 9 杉垣		
10	問診で得た情報をアセスメントし学習のニーズを考える	事例演習	担当：西岡 10 杉垣 テキスト 1・2・3・5		
11	看護技術 - 簡易血糖測定の実施 -	演習(多目的室)	担当：西岡 11 杉垣 テキスト 4 実習服		
12	学習目標と学習支援計画立案	事例演習	担当：西岡 12 杉垣 テキスト 3		

## シラバス 専門分野 成人看護学 成人看護援助論 I (2)

13	事例対象者へ学習支援実施	演習 (多目的室・実習室)	担当: 西岡 13 杉垣
14	事例演習まとめ	演習 講義	担当: 西岡 14 杉垣
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 事例学習を行います。事前学習に取り組み授業に臨みましょう。病態関連図を書き、病態を理解すると今後の学習に活用できます。 6回目・7回目の授業で事例演習の情報収集時間を設けます。8回目には、事例対象者の病態と治療の学習をして授業に臨んでください。演習の振り返りは、プロセスレコード、リフレクションを活用します。動画を撮影し自己の演習状況を振り返る時の資料とするので、タブレットの準備をしてください。		<b>評価方法</b> 筆記試験 65点 演習取り組み 9点 レポート 8点×2 学習態度 10点	
<b>使用するテキスト</b> 1. 成人看護学総論 2. 成人看護学 内分泌代謝 3. 基礎看護技術 I 4. 基礎・臨床看護技術 (医学書院 eテキスト) 5. 看護過程に沿った対症看護 (医書 jp)			
<b>参考文献</b> 糖尿病患者のセルフマネジメント教育 メディカ出版 慢性疾患の病みの軌跡 医学書院			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	小椋貴文 長島愛美 宮本彩 栗田紗都美
科目名	成人看護援助論Ⅱ 「健康の危機状況に ある成人の看護」	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15 回)		

## 事前学習内容

解剖生理学、病理学、治療論等の1年次に学習した内容の予習を行い授業に臨みましょう。  
事例(骨盤骨折)に関する病態・治療・看護を学習しておく。  
授業時に講師に指示された内容に取り組む。

## 科目全体のねらい・授業目標

急激に健康の破綻をきたしたとき、成人期にある人はどのような身体・心理反応を示すか。本科目では生命の危機状態にあるときの生体の反応・心理的反応を捉え、緊急・治療時の看護を学ぶ。

DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	クリティカルケア看護・救急看護の特性とケアを必要とする患者と家族の特徴が理解できる	講義	担当：小椋1 テキスト1・2・3
2	クリティカルケアを必要とする患者のアセスメントと看護を考えることができる 事例；外傷(骨盤骨折)	講義・協同学習	担当：小椋2 テキスト1・2・3 資料
3	クリティカルケア・救急看護における看護の役割が理解できる 看護体制・展開、看護方式、医療安全 チーム医療の特徴と看護の役割、他職種連携 重症集中治療管理	講義	担当：長島1 テキスト1・2
4	クリティカルケア・救命救急時の看護が理解できる 全身の観察とアセスメント 緊急検査	講義	担当：宮本1 テキスト1・2
5	各機能の観察とアセスメント 脳・神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、 腎泌尿器・生殖器系、筋・骨格系、内分泌・ 代謝系、凝固・線溶系、精神状態	講義	担当：宮本2 テキスト1・2
6	クリティカルケア・救急看護に必要な看護技術	講義	担当：宮本3

	呼吸管理、体液・循環管理		テキスト1・2
7	クリティカルケア・救急看護に必要な看護技術 栄養管理、鎮痛・鎮静管理、体温管理、感染予防 対策、創傷管理、ドレーン管理、ME 機器管理	講義	担当：宮本4 テキスト1・2
8	クリティカルケア・救命救急時の看護が理解できる 主要病態に対する救急処置と看護 心肺停止状態への対応 BLS・ALS 一次救命処置 (BLS) の実際	講義 演習 (多目的)	担当：栗田1 テキスト1・2
9	主要病態に対する救急処置と看護 意識障害、呼吸障害、ショック・循環障害	講義	担当：栗田2 テキスト1・2
10	主要病態に対する救急処置と看護 急性腹症、泌尿器・生殖器障害、体液・代謝 異常、感染症、体温異常、外傷、熱傷、中毒、 溺水、刺咬症	講義	担当：栗田3 テキスト1・2
11	クリティカルケア看護・救急看護場面における倫理・ 法律について理解できる 患者・家族の心理的特徴と危機状態にある患者・ 家族へのケアについて理解できる	講義 演習 (実習室)	担当：長島2 テキスト1・2・4
12	クリティカルケア看護の実際が理解できる 呼吸・循環器疾患の病態生理・検査・治療 呼吸・循環器系のフィジカルアセスメント 呼吸・循環器系の検査の読み取り	講義 演習 (実習室)	担当：長島3 テキスト1・2・4
13	クリティカルな状態にある患者への看護を考える ことができる	シミュレーション (実習室)	担当：長島4 テキスト1・2・4 資料
14	シミュレーションの振り返り (リフレクション) まとめ	講義	担当：長島5 テキスト1・2・4
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> クリティカルな場面では常に「思考する」「判断する」力が必要になります。教科書や資料を活用して予習・復習に取り組み、ただ暗記するのではなく理解するように努めましょう。 わからない内容があれば、必ず講師に確認してください。		<b>評価方法</b> 筆記試験 90点 取り組み点 10点	
<b>使用するテキスト</b> 1. クリティカルケア 2. 救急看護学 3. 成人看護学総論 (医学書院 eテキスト) 4. 看護がみえる vol3 フィジカルアセスメント メディックメディア			
<b>参考文献</b> 臨床看護総論 臨床検査 解剖生理学 病理学 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ [からみた] 基礎・臨床看護技術 (医学書院 eテキスト)			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2 年次	担当講師	小椋貴文 上田麗 園田麻美 正垣裕司 才木寿治
科目名	成人看護援助論Ⅲ 「多様な治療における看護」	単位数	1 単位		
		時間数(回数)	15 時間(8 回)		
<b>事前学習内容</b> 成人看護学概論で学習した内容（成人期の特徴、倫理的判断、意思決定支援）を復習しておく。 授業時に講師に指示された内容に取り組む。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 成人期における治療の選択は患者本人に委ねられる。最新の治療に関する知識をもち、患者の自己選択・自己決定を助け、本来の生活にできるだけ早期に復帰できるよう援助することが必要である。 患者が主体的に治療参加できるための支援、各治療における看護、治療時の安全管理（医療機器の安全な取り扱いを含む）について学ぶ。					
DP との 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	主体的な治療参加への支援が理解できる	講義	担当：小椋 1 教科書 1・2・3		
2	治療法の多様化とインフォームド・コンセントにおける看護師の役割が理解できる	講義 演習（実習室）	担当：小椋 2 教科書 1・3		
3	多様な治療法と看護が理解できる 化学療法における看護	講義	担当：上田 1 教科書 3・4		
4	放射線療法における看護	講義	担当：上田 2 教科書 3・4		
5	ペースメーカー挿入における看護 内視鏡的治療における看護	講義	担当：園田 1 教科書 3・5・6		
6	透析療法における看護	講義	担当：正垣 1 教科書 3・7		
7	医療機器の特徴と安全管理に向けた機器の 取り扱いが理解できる	講義 演習（実習室）	担当：才木 1 教科書 8		
8	終講試験				
<b>受講上の留意点</b> 各治療における看護を学習するために必要な知識として、主な疾患やその病態、治療に関する内容を予習して授業に臨む。 状況によって、レポート課題を提示します。（取り組み点として評価）				<b>評価方法</b> 筆記試験 85 点 取り組み点 15 点	
<b>使用するテキスト</b> 1. 総合医療論 2. 看護史 3. 成人看護学総論 4. がん看護学 5. 循環器 6. 消化器 7. 腎・泌尿器 8. 臨床看護学総論（医学書院 e テキスト）					
<b>参考文献</b> 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ [からみた] 基礎・臨床看護技術（医学書院 e テキスト）					

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	大海 貴子 森 知美
科目名	老年看護学概論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
事前学習内容 授業時に講師より指示された内容に取り組む					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 老年期にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。超高齢社会における医療保健福祉制度における看護の役割について学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	ライフサイクルにおける老年期とその特徴がわかる (老年期の発達と変化・ライフサイクルからみた高齢者・高齢者の健康と生活)			講義	担当：大海 1 テキスト 1.2
2	老年期にある人の生理的特徴がわかる (老化の捉え方、老化とは、認知・知覚 呼吸・循環器 消化・吸収・代謝機能 排泄機能 免疫機能 運動機能 骨・関節機能の老化)			講義	担当：大海 2 テキスト 1.2
3	老年期の健康の特徴がわかる (老年症候群・フレイル・サルコペニア)			講義	担当：大海 3 テキスト 1.2
4	高齢者を取り巻く社会と対応がわかる (超高齢社会の現況・リロケーション・エンドオブライフケア・APC)			講義	担当：大海 4 テキスト 1.2
5	高齢者を高齢者の暮らしを支える法律・制度・システムがわかる (後期高齢者医療制度・介護保険制度・地域ケアシステム・権利擁護)			発表	担当：大海 5 テキスト 1.2 事前配布資料
6	老年看護の基本と看護について理解できる (老年看護の6つの役割、概念、モデル、理論・老年看護の倫理・権利擁護・安全・災害・救急)			講義	担当：大海 6 テキスト 1.2
7	養父市の現況と取り組みの実際がわかる			講義	担当：森 1
8	終講試験				
<b>受講上の留意点</b> ・事前学習を十分行い、主体的に授業に取り組む。 ・グループ発表がある。グループで協力しあいながら学習を進める。 ・森講師の授業後にレポート提出を求める。				<b>評価方法</b> 筆記試験・取り組み・課題 レポート・ファイル	
<b>使用するテキスト</b> 1. 老年看護学 2. 老年看護病態・疾患論 (医学書院 eテキスト)					
<b>参考文献</b> 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の展開 (医学書院 eテキスト) 国民衛生の動向・厚生指針 一般財団法人労働システム協会					

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	大海貴子
科目名	老年看護援助論 I	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b> 授業時に講師より指示された内容に取り組む					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化が生活に及ぼす影響とその看護について理解する。また、臓器能や予備力の低下により重症化しやすい高齢者に特有の症状・徴候に対する看護を学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探求し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	生活機能からみた老年看護過程がわかる (老年看護の目的・目標・特徴、老年看護過程)			講義	テキスト1.2
2	その人らしい臨む生活・持てる力を見出すことができる (事例検討)			グループワーク	テキスト1.2 事前配布資料
3	加齢変化が高齢者に与える影響(3側面、生活)を体験し必要な援助を考える(高齢者疑似体験)			演習(多目的室) グループワーク	テキスト1.2 当日配布資料
4	高齢者の基本的動作を支えるための看護がわかる (歩行・姿勢保持の看護、廃用症候群とその予防、良肢位の保持)			講義 演習(実習室)	テキスト1.2
5	高齢者の食・食生活を支える看護がわかる (高齢者の食生活の意義、加齢に伴う摂食嚥下機能の変化・多い疾患とその影響、食生活へのアセスメント)  経口摂取が出来ない人の食事支援の方法と実際がわかる(経管栄養チューブの挿入と管理)			講義 演習(実習室)	テキスト1.2.3
6	高齢者の排泄を支える看護がわかる (高齢者の排泄ケアの基本、排尿障害・排便障害のアセスメントとケア)  おむつ交換の実際がわかる			講義 演習(実習室)	テキスト1.2.3
7	高齢者の清潔を支える看護がわかる			講義	テキスト1.2

	(高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題とリスク) 高齢者の快適な衣生活と看護がわかる 高齢者とセクシュアリティについて考える	グループワーク	
8	高齢者と生活リズムを支える看護がわかる (高齢者に特徴的な変調、生活リズムのアセスメントと看護)  高齢者の特徴をふまえたコミュニケーション方法と実際がわかる(高齢者のコミュニケーションの特徴と生じやすい障害・コミュニケーションの方法)	講義 演習(実習室)	テキスト1.2.3
9	高齢者と発熱への看護がわかる (発熱のメカニズム、高齢者に多い発熱を伴う疾患と看護・事例検討(熱中症))	講義 グループワーク	テキスト1.2
10	高齢者と痛みへの看護がわかる (痛みのメカニズムとその特徴、痛みを伴う高齢者に多い疾患と看護・事例検討(腰椎圧迫骨折))	講義 グループワーク	テキスト1.2
11	高齢者と掻痒への看護がわかる (掻痒のメカニズムとその特徴と看護事例検討(老人性掻痒症))	講義 グループワーク	テキスト1.2
12	高齢者と嘔吐・脱水の看護がわかる (嘔吐・脱水のメカニズム・アセスメントと看護  嘔吐時の対応の実際がわかる)	講義 演習(実習室)	テキスト1.2
13	高齢者と浮腫、浮腫の評価方法がわかる (浮腫のメカニズムと特徴、アセスメントと看護)	講義 グループワーク	テキスト1.2.3
14	高齢者に起こりやすい褥瘡と評価方法がわかる (褥瘡・スキンケアと特徴、アセスメントと看護)	講義	テキスト1.2.3
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> ・事前学習を十分おこない、主体的に授業・演習に臨む。 ・演習、グループワークには、他者の意見をしっかり聴き、積極的に自己の意見も伝える。 ・自己の身に置き換え考え、実際の場面や生活をイメージしながら看護を考える。		<b>評価方法</b>  筆記試験・取り組み・課題 ファイル	
<b>使用するテキスト</b> 1. 老年看護学 2. 老年看護病態・疾患論 3. 基礎看護技術Ⅱ(医学書院 eテキスト)			
<b>参考文献</b> 看護がみえる 臨床看護技術 MEDIC MEDIA リハビリテーション看護(医学書院 eテキスト)			

授業概要

<b>分野</b>	専門分野	<b>履修年次</b>	2年次	<b>担当講師</b>	櫻井幸子 中村 薫 芦川琴乃
<b>科目名</b>	老年看護援助論Ⅱ 「高齢者の生活を 支える看護」	<b>単位数</b>	1単位		
		<b>時間数(回数)</b>	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b> 老年期の加齢的变化、地域包括ケアシステム・介護保険法、ヘルスプロモーションの考え方、健康の保持・増進と看護について復習し、事前に配布したワークに取り組む。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化による生活への影響を総合的にとらえる視点について学ぶ。高齢者の健康課題や地域での活動の実際から、高齢者の健康の保持、疾病予防に向けた看護の役割・機能を理解する。					
<b>DPとの 関連</b>	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に対して実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保険医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働ができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探求し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
<b>回</b>	<b>学習内容と成果</b>	<b>方法</b>		<b>備考</b>	
1	高齢者の生活機能アセスメント(各感覚器・運動器)の視点が理解できる	講義 協同学習		担当：櫻井1 テキスト1.2	
2	高齢者の生活機能アセスメント(各臓器)の視点が理解できる			担当：櫻井2 テキスト1.2	
3	ICFと総合的な理解の視点が理解できる	講義 協同学習		担当：櫻井3 テキスト1.2	
4	アセスメントツールとその活用方法が理解できる			担当：櫻井4 テキスト1	
5	高齢者の生活をとらえる面接技法が実施できる	演習(多目的室・実習室) リフレクション		担当：櫻井5 テキスト2	
6	高齢者の健康増進と支える法律、暮らしの特徴と社会参加の効果について理解できる	講義 グループワーク		担当：櫻井6 テキスト1 配布資料	
7	生活習慣病予防・転倒予防方法が理解できる			担当：櫻井7 配布資料	
8	高齢者のうつ・せん妄の病態・症状と看護が理解できる	講義 グループワーク		担当：中村1 テキスト1.2	
9	認知症の病態と要因・評価、基本姿勢が理解できる			担当：中村2 テキスト1.2	
10	認知症の周辺症状・生活への影響、家族支援とサポートシステムが理解できる			担当：中村3 テキスト1.2	

11	養父市の介護予防に向けた取り組みの実際が理解できる(元気にクラス)	体験学習(多目的室)	担当：芦川 1
12	養父市の認知症施策の取り組みの実際が理解できる(認知症サポーター研修)	講義	担当：芦川 2
13	介護予防プログラム(健康教室)の計画立案	ポストテスト 講義・演習	担当：櫻井 8 授業で使用了資料 テキスト 1.2
14	介護予防プログラム(健康教室)の実施	演習	担当：櫻井 9 授業で使用了資料 テキスト 1.2
15	終講試験	筆記試験	
<b>受講上の留意点</b> 事前に授業に指示した学習の準備を整えておいてください 協同の精神を大切に臨んでください		<b>評価方法</b> 筆記試験 取り組み状況 ワーク・グループ取り組み状況	
<b>使用する教科書</b> 1. 老年看護学(医学書院 e-テキスト)老年看護病態・疾患論(医学書院 e-テキスト)			
<b>参考文献</b> ナーシング・グラフィカ 高齢者の健康と障害 メディカ出版			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	谷口 留充
科目名	小児看護学概論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15回(8回)		
<b>事前学習内容</b> 授業時に指示します					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 子どもの成長・発達の過程と生活の特徴を学ぶ。さらに、子どもにとって重要な位置づけとなる家族にも目を向け、子どもと家族を一つの単位として考えた実践に必要な基礎的知識を学ぶ。また、子どもを取り巻く社会、子どもの権利や子どもを支える施策を学び、小児看護実践の基盤となる考え方を理解する。					
DPとの関連	DP 1	看護の対象である人間を総合的に理解することができる			
	DP 2	科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる			
	DP 3	健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態の変化に応じて実践することができる			
	DP 4	人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる			
	DP 6	保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。			
	DP 7	変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。			
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	小児看護の理念と役割が理解できる (子どもの特徴、子どもと家族の機能、小児看護の目標と役割)		講義	テキスト1	
2	子どもの権利と小児保健施策が理解できる (子どもの人権、子どもの権利擁護、小児保健のための施策・法)		講義	テキスト1	
3	小児の成長・発達の特徴が理解できる (発達の定義と原理原則、成長発達と影響因子)		講義	テキスト1	
4	新生児期・乳幼児の成長と発達が理解できる (形態的・運動・認知・情緒社会機能の特徴と統合された機能)		協同学習	テキスト1	
5	幼児期の成長と発達が理解できる (形態的・運動・認知・情緒社会機能の特徴と統合された機能)		協同学習	テキスト1	
6	学童期の成長と発達が理解できる (形態的・運動・知的・情緒社会機能の特徴、学童を取り巻く諸環境)		協同学習	テキスト1	
7	思春期の成長と発達が理解できる (形態的・知的・情緒社会機能の特徴、生活の特徴と課題)		協同学習	テキスト1	
8	終講試験		筆記試験		
<b>受講上の留意点</b> 子どもの頃の経験を思い出しながら学習に取り組んでみると理解しやすいと思います。また、日ごろから周囲の子ども達の行動や様子、子どもを取り巻く社会環境に目を向けておきましょう。子どもの成長と発達に関する授業は、主に事前学習を活用し進めていきます。指示した学習にはしっかり取り組み受講してください。			<b>評価方法</b> 授業の取り組み(10点) 筆記試験(90点)		
<b>使用するテキスト</b> 1. 小児看護学概論 (医学書院 e テキスト)					
<b>参考文献</b> 国民衛生の動向・厚生指標 一般社団法人厚生労働統計協会 舟島なをみ他編 看護のための人間発達学第5版 医学書院					

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	港 敏則 藤林 洋美 片岡 大 山田 博之 大西 裕人
科目名	小児看護援助論 I	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
<b>事前学習内容</b> 開講前、授業時に講師より指示された内容に取り組む					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 子どもに特徴的な疾病や健康障害について理解し、その疾病や健康障害を抱える子どもと家族の看護に必要な基礎知識を学ぶ。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態の変化に応じ実践することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	染色体異常と先天異常、新生児の疾患の病態と診断・治療が理解できる。		講義	担当：片岡 1 テキスト 1、2	
2	代謝系・内分泌系・感染性疾患の病態と診断・治療が理解できる。		講義	担当：大西 1 テキスト 1、2	
3	循環器系・神経疾患の病態と診断・治療が理解できる。		講義	担当：山田 1 テキスト 1、2	
4	免疫・アレルギー疾患、呼吸器系疾患の病態と診断・治療が理解できる。		講義	担当：港 1 テキスト 1、2	
5	消化器系・腎泌尿器系疾患の病態と診断・治療が理解できる。		講義	担当：大西 2 テキスト 1、2	
6	血液・造血器の疾患、悪性新生物の病態と診断・治療が理解できる。		講義	担当：大西 3 テキスト 1、2	
7	精神・心身の疾患の病態と診断・治療が理解できる		講義	担当：藤林 1 テキスト 1、2	
8	終講試験		筆記試験		
<b>受講上の留意点</b> 授業計画を参考にテキストの該当箇所を読み受講してください。また、授業後は学習した内容を、資料やテキストで再確認し復習しておきましょう。				<b>評価方法</b> 筆記試験(100点)	
<b>使用するテキスト</b> 1. 小児看護学概論 2. 小児看護学各論 (医学書院 e テキスト)					
<b>参考文献</b> 鴨下・柳澤/監修 子どもの病気の地図帳 講談社					

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	中村 由夏 森 博美 梶井 弘美 谷口 留充 非常勤講師
科目名	小児看護援助論Ⅱ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b> 「症状を示す子どもの看護」の授業前に事例を配布します。病態関連図を描き授業時に持参してください。その他の事前学習内容については、講師より指示された内容に取り組んでください。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 成長発達の過程の中で病気や障害を体験することは、子どもへさまざまな影響を与える。痛み、不快症状、生命の危機などにさらされることも多く、同時に慣れ親しんだ家庭や学校と離れての生活など環境の変化と生活上の制限をもたらすこととなる。家族もまた、子どもが健康課題を抱えることにより不安や日常生活の変化などを抱える。本科目では、健康課題が子どもや家族へどのような影響を与えるかを理解し、発達段階や健康段階に応じた看護が実践できる知識・技術を学ぶ。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態の変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者として自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護 病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護	講義	担当：森1 テキスト1		
2	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護① 入院中の子どもと家族の看護 入院環境と看護の役割 入院中の子どもと家族の特徴と看護	講義	担当：森2 テキスト1		
3	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護② 外来における子どもと家族の看護 外来環境と看護の役割、外来受診をする子どもと家族特徴と看護、事故・外傷と看護	講義	担当：梶井1 テキスト1		
4	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護③ 災害時の子どもと家族の看護 被災地の環境と看護の役割 災害時の子どもと家族の特徴と看護	講義 グループワーク	担当：谷口1 テキスト1 資料		
5	症状を示す子どもと家族の看護① 発熱、嘔吐、下痢、脱水、便秘の症状と子どもへの影響、アセスメントと症状看護	講義 協同学習	担当：谷口2 テキスト1、2		
6	症状を示す子どもと家族の看護② 呼吸困難、チアノーゼ、意識障害、痛みの症状と子どもへの影響、アセスメントと症状看護	講義 協同学習	担当：谷口3 テキスト1、2		
7	検査・処置を受ける子どもと家族の看護 子どもの検査・処置の特徴と看護	講義	担当：谷口4 テキスト1		

8	障害のある子どもと家族の看護 障害のある子どもと家族の特徴、社会的支援	講義	担当：梶井 2 テキスト 1
9	新生児の異常と看護 低出生体重児、新生児仮死、高ビリルビン血症と看護 新生児集中治療室における看護師の役割	講義	担当：中村 1 テキスト 2
10	子どもの虐待と看護① 子ども家庭センターの役割と相談の実際	講義	担当：非常勤講師 1 資料
11	子どもの虐待と看護② 虐待を受けた子どもと家族の看護	講義	担当：梶井 3 テキスト 1
12	子どもにおける疾病の経過と看護② 慢性期にある子どもと家族の看護	講義 グループワーク	担当：谷口 4 テキスト 1 資料
13	小児看護に必要な看護技術の実際 身体計測、バイタルサイン測定	演習（実習室）	担当：谷口 5 テキスト 1、3
14	子どもの状態に応じた看護援助の実際 気管支喘息を発症した患児（幼児期）のアセスメントと看護の実際	演習（実習室）	担当：谷口 6 テキスト 1、2、3
15	終講試験	筆記試験	
<b>受講上の留意点</b> 小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰで学んだ内容をもとに進みます。理解を深めるために、既習知識に戻り主体的に調べ、積極的に質問して取り組みましょう。一部協働学習を取り入れます。それぞれの考えを共有、吟味し学んでいきましょう。評価は、出席状況、課題提出状況などを取り組み点としてつけていきます。また、演習後は課題レポートがあります。詳細は授業時に指示します。		<b>評価方法</b> 授業の取り組み（5点） 課題レポート点（5点） 筆記試験（90点）	
<b>使用するテキスト</b> 1、小児看護学概論 2、小児看護学各論 3、根拠と事故防止からみた小児看護技術第3版 (医学書院 e テキスト)			
<b>参考文献</b> 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント第5版 学研メディカル集潤社			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	安達 文佳
科目名	母性看護学概論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
<b>事前学習内容</b> 授業時に講師に指示された内容に取り組む					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 母性看護学における母性の意味を幅広くとらえ、母性看護の対象の特徴を理解する。また、女性の健康とライフステージの関連性を踏まえ、リプロダクティブヘルス/ライツに関する課題とケアについて学び、母性看護の基盤となる概念を理解する。さらに、いのちの誕生を人間のはじまりとして捉え、いのちを創造し育む存在としての人間をみつめる視点を養い、一人の人間として、また看護の専門職者として、いのちについて考える					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
	<b>授業の流れ</b>				
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	母性の特性を説明できる(母性・父性・親性・母性の身体的・心理社会的特性)	講義	テキスト1 資料		
2	母性看護の基盤となる概念を説明できる(母性看護の対象、目的、実践の中核となる理念)	講義	テキスト1 資料		
3	女性や母子・家族を取り巻く社会の変遷と現状を説明できる(統計、法律)	講義 協同学習	テキスト1 資料		
4	リプロダクティブヘルス/ライツに関する概念を説明できる(セクシュアリティ、エストロゲン)	講義 協同学習	テキスト1 資料		
5	リプロダクティブヘルスケアについて説明できる(喫煙と女性の健康、家族計画と受胎調節)	講義 協同学習	テキスト1 資料		
6	リプロダクティブヘルスケアについて説明できる(性感染症、性暴力、人工妊娠中絶)	講義 協同学習	テキスト1 資料		
7	母性看護における倫理について多角的に考えることができる(生命倫理、権利、出生前診断)	講義 協同学習	テキスト1 資料		
8	終講試験		ファイル提出		
<b>受講上の留意点</b> 母性は特別なものではなく、私たちの生活や社会と深く関わっています。身近なこととして捉えながら、多様な価値観を尊重し、他者の意見に触れながら主体的に学習に取り組みましょう。				<b>評価方法</b> 授業の取り組み状況 10点 筆記試験 90点	
<b>使用するテキスト</b> 1. 母性看護学概論(医学書院 eテキスト)					
<b>参考文献</b> 国民衛生の動向・厚生指針 一般社団法人厚生労働統計協会 舟島なをみ 他編 看護のための人間発達学 医学書院 看護につながる解剖生理学(医書.jp)					

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	森本朋子 米田朝子 久保井ゆう子 飯野留美子
科目名	母性看護援助論 I 「周産期の基礎的知識」	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b>					
周産期の大きな生理的変化を理解するためには、非妊時の状態の理解が基盤となる。既習の女性生殖器の構造・機能や母性看護学概論を復習すること。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常な経過を中心に理解し、健康障害との関連を捉える。周産期の心身の変化を正確に把握し、看護援助を学ぶための基盤となる知識を身につけることをねらいとする。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	正常妊娠の経過を理解し、胎児の成長を説明できる (妊娠の成立、胎児の成長)		講義	担当：森本 1 テキスト1 資料	
2	正常妊娠に伴う母体の生理的変化と不快症状を説明できる (内分泌変化・循環・呼吸・消化機能の変化・不快症状)		講義	担当：森本 2 テキスト1 資料	
3	妊娠期の心理・社会的変化を理解し、母子・家族への影響を説明できる(心理的变化・家族関係)		講義	担当：森本 3 テキスト1 資料	
4	妊娠期の異常を理解し、正常経過との違いを関連づけて説明できる(感染症、妊娠悪阻、貧血、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、流産、早産、切迫早産)		講義	担当：森本 4 テキスト1 資料	
5	正常分娩の経過を理解し、分娩の成立要因を説明できる (分娩の3要素、分娩の機序)		講義	担当：久保井 1 テキスト1 資料	
6	分娩の進行を理解し、各期の特徴を説明できる (分娩第1期～第4期)		講義	担当：久保井 2 テキスト1 資料	
7	分娩が母子・家族に及ぼす影響を理解し、説明できる (胎児血・胎児心拍数への影響、産婦と家族の心理・社会的変化)		講義	担当：久保井 3 テキスト1 資料	
8	分娩期の異常を理解し、正常経過との違いを関連づけて説明できる(産道、娩出力、胎児及び娩出物の異常、分娩時異常出血)		講義	担当：久保井 4 テキスト1 資料	

9	産褥期の身体的変化を理解し、正常な経過を説明できる (退行性変化・進行性変化)	講義	担当：米田 1 テキスト1 資料
10	産褥期の心理・社会的変化を理解し、母子・家族への影響を説明できる (褥婦と家族の心理・家族関係)	講義	担当：米田 2 テキスト1 資料
11	産褥期の異常を理解し、正常経過との違いを関連づけて説明できる (子宮復古不全、感染症、乳房トラブル、マタニティーブルーズ、産後うつ病)	講義	担当：米田 3 テキスト1 資料
12	新生児の子宮外適応を理解し、正常な生理的变化を説明できる (子宮外適応現象：呼吸・循環・体温、アプガースコア、姿勢、反射)	講義	担当：飯野 1 テキスト1 資料
13	新生児の生理的機能を理解し、正常な経過を説明できる (消化と吸収、ビリルビン代謝、腎機能)	講義	担当：飯野 2 テキスト1 資料
14	新生児期の異常を理解し、正常経過との違いを関連づけて説明できる (呼吸障害、低血糖、体温の異常、生理的体重減少、生理的黄疸)	講義	担当：飯野 3 テキスト1 資料
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 周産期の変化は暗記にとどまらず、意味を意識しながら理解することが大切です。正常な経過を基盤として、学んだ知識を整理しながら主体的に取り組みましょう			<b>評価方法</b> 筆記試験
<b>使用するテキスト</b> 1. 母性看護学各論 (医学書院 eテキスト)			
<b>参考文献</b> 母性看護学概論 【からみた】母性看護技術 (医学書院 eテキスト)			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	小谷真知子 福田晴美 米田朝子 橋本みどり 安達文佳
科目名	母性看護援助論Ⅱ 「周産期の看護」	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b>					
母性看護学概論・援助論Ⅰを基盤に、正常経過を想起し看護につながる準備をする					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
援助論Ⅰで学んだ周産期の経過を基盤に、身体的、心理社会的側面からアセスメントを行い、各期の順調な経過を促進するための看護を学ぶ。さらに、正常な経過から逸脱した母親と家族への看護についても理解を深める。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	周産期の看護における主要概念と母子保健施策を説明できる(母親になる過程、愛着形成、母子相互作用、母子保健法、災害時の母子保健)	講義 グループワーク	担当: 安達 1 テキスト 1 資料		
2	妊娠期のアセスメント項目を挙げ、順調な経過を促す看護を説明できる(妊婦健康診査)	講義 グループワーク	担当: 小谷 1 テキスト 2 資料		
3	妊婦と家族への看護を説明できる(妊婦の日常生活におけるセルフケア、マイナートラブル)	講義 グループワーク	担当: 小谷 2 テキスト 2 資料		
4	妊婦と家族への支援を説明できる(母親学級、両親学級、バースプラン)	講義 グループワーク	担当: 小谷 3 テキスト 2 資料		
5	妊婦の観察に必要な技術を安全に実施できる(子宮底長・腹囲測定、レオポルド触診法、胎児心音聴診法)	講義・演習(実習室)	担当: 小谷 4 テキスト 2・3 資料		
6	分娩期のアセスメント項目を挙げ、順調な経過を促す看護を説明できる(分娩経過、産婦の基本的ニード)	講義 グループワーク	担当: 福田 1 テキスト 2 資料		
7	産婦と家族への看護を説明できる(安全・安楽分娩への看護、肯定的な出産体験を促す看護、事例)	講義 グループワーク	担当: 福田 2 テキスト 2・3 資料		
8	産褥期の身体的変化を踏まえた看護を説明できる(退行性変化・進行性変化の看護: 産褥体操・乳房ケア・家族計画)	講義 グループワーク	担当: 米田 1 テキスト 2 資料		

9	産褥期の心理・社会的変化を踏まえた看護を説明できる(母親役割獲得過程、バースレビュー、マタニティブルーズ、産後うつ)	講義 グループワーク	担当：米田 2 テキスト 2 資料
10	褥婦の観察を行い、得られた情報を考え、収集・整理し、状態を捉えることができる(事例)	講義・演習(実習室)	担当：米田 3 テキスト 2・3 資料
11	新生児のアセスメント項目を挙げ、看護を説明できる(出生直後全身の評価、保温、感染予防、栄養、清潔)	講義 グループワーク	担当：福田 3 テキスト 2・3 資料
12	新生児の看護技術を安全に実施できる(沐浴・抱き方・寝かせ方・オムツ交換・寝衣交換)	講義・演習(実習室)	担当：福田 4 テキスト 2・3 資料 モデル人形使用
13	異常をきたした妊婦・産婦・褥婦及び新生児と、その家族に必要な看護が説明できる(事例：切迫早産、破水)	講義 グループワーク	担当：橋本 1 テキスト 2 資料
14	異常をきたした妊婦・産婦・褥婦及び新生児と、その家族に必要な看護が説明できる(事例：健康上の問題がある児)	講義 グループワーク	担当：橋本 2 テキスト 2 資料
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 知識を覚えるだけでなく、根拠をもって看護を考えることを大切にしましょう。演習では母子の安全と安楽を意識し、意味を考えながら取り組んでください。		<b>評価方法</b> 筆記試験	
<b>使用するテキスト</b> 1. 母性看護学概論 2. 母性看護学各論 3. 【からみた】母性看護技術(医学書院 eテキスト)			
<b>参考文献</b>			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	岩永 力男 田中佳代子
科目名	精神看護学概論	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
<b>事前学習内容</b>					
<p>岩永先生の講義は心理学 I の知識が必要となります。心理学 I で学んだことを本授業に活かせるように工夫して下さい。</p> <p>田中の講義では事前に全講義のレジュメを配布します。必ずレジュメの内容についての事前学習をして講義に臨んでください。</p>					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
<p>神障害とは人間ならば誰でも体験する可能性があることや、こころの健康－不健康について学び、精神障害はその人の生きるプロセスであることを理解する。そして精神看護は、人々が障害の有無にかかわらずその人らしく生きていくこと、すなわち自己実現に向けた援助であることを理解し、こころの問題を社会全体で考えることについて、歴史的な偏見や誤解、こころの健康の保持・増進、さらに倫理的な観点から看護が果たす役割について学ぶものとする。</p>					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	精神看護の目的と意義、精神障害の捉え方が理解できる。(日本の精神医療の現状、精神の健康の定義、ICF モデル、精神看護の対象)	講義	担当:田中 1 テキスト 1 資料		
2	こころの仕組みと人格の発達について理解できる (人格と気質、自我の構造と機能:フロイトの精神力動理論、欲求不満耐性と防衛機制)	講義 ロールプレイ	担当:岩永 1・2・3 テキスト 1 資料		
3	こころの発達に関する主要な考え方が理解できる。				
4	(こころの発達に関する主要な理論:エリクソンの漸性的発達理論・対象関係理論・ボウルビーの愛着理論・コフートの自己心理)				
5	危機の概念と予防について理解できる。(セリエのストレス理論、カプランの危機理論、危機介入) ストレスと対処について理解できる。(コーピング、精神保健における3つの予防概念、ストレスマネジメント)	講義 協同学習	担当:田中 2 テキスト 1・2 資料		
6	各発達段階における危機と精神の健康への影響が分かる。 災害時の精神保健の考え方が分かる。(災害時のストレス反応、	講義 協同学習	担当:田中 3 テキスト 1・2		

	心的外傷と心的外傷後ストレス障害、災害時の支援のあり方、リカバリー)		資料
7	精神保健福祉に関する法律と権利擁護のための看護について理解できる。(精神科医療の歴史、精神保健福祉の改革ビジョン、精神保健福祉法、精神保健福祉活動の中核となる機関の役割と機能、ノーマライゼーションとインクルージョン)	講義 協同学習	担当:田中 4 テキスト 1・2 資料
8	終講試験		
<b>受講上の留意点</b>		<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩永先生の講義は土曜日に実施します。時間割をよく確認して各自の予定を調整して下さい(平日に代休をとります)。</li> <li>・田中の講義は協同学習を主体とした内容となります。各自、事前・事後学修に取り組んだうえで授業に臨んでください。</li> </ul>		筆記試験(岩永先生:35点 田中:45点)、レポート点(岩永先生:5点 田中:5点) 学習への取り組み状況(10点)	
<b>使用するテキスト</b>			
1. 精神看護の基礎 2. 精神看護の展開 3. 看護のための人間発達学(医学書院 eテキスト)			
<b>参考文献</b>			
大熊一夫 精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本 岩波書店			
長田久雄 看護学生のための心理学 医学書院			
V.E. フランクル 夜と霧 みすず書房			
武井麻子 精神看護学ノート 医学書院			
大熊一夫 精神病院を捨てたイタリア捨てない日本 岩波書店			
斎藤環 オープンダイアログとはなにか 医学書院			
中野敬子 ストレスマネジメント入門 金剛出版			
萱間真美 リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術 医学書院			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	竹内克史 見市義亮
科目名	精神看護援助論 I	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
<b>事前学習内容</b>					
授業時に指示された内容に取り組んでください。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
精神疾患や精神症状について正しい知識を持つことで、精神障がいを持つ人への正しい理解へとつなげ、症状や治療に苦しむ患者の気持ちや思いに少しでも寄り添えるための看護の基礎知識を習得することをねらいとした科目である。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	精神障害とその治療の歴史的な流れが理解できる。(精神障害者の理解のされ方の歴史、精神保健福祉法、外来・入院患者の現状)	講義	担当:見市1 テキスト1 資料		
2	精神障害を持つ人が抱える症状が理解できる。(思考の障害、感情の障害、意欲の障害、知覚の障害)	講義	担当:竹内1 テキスト1 資料		
3	主な精神疾患の特徴が理解できる① (疾患の分類と診断基準、統合失調症)	講義	担当:見市2 テキスト1 資料		
4	主な精神疾患の特徴が理解できる② (気分障害、神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害)	講義	担当:竹内2 テキスト1 資料		
5	主な精神疾患の特徴が理解できる③ (摂食障害、パーソナリティ障害)	講義	担当:見市3 テキスト1 資料		
6	主な精神疾患の特徴が理解できる④ (精神作用性物質関連障害、発達障害)	講義	担当:見市4		
7	精神科における主な治療が理解できる。(薬物療法、電気痙攣療法、精神療法、作業療法、精神科リハビリテーション)	講義	担当:竹内3 テキスト1 資料		
7	終講試験				
<b>受講上の留意点</b>				<b>評価方法</b>	
・精神疾患の特徴や症状は身近にはないことが多くイメージがしにくいと思います。図書室にある「Shrink(シュリンク)精神科医ヨワイ」を是非読んでみて下さい。講義で聞いたことが「なるほど、こういうことか」と理解につながると思います。				筆記試験	



## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	坪井淳 谷友紀子 萩野あさひ 田中佳代子
科目名	精神看護援助論Ⅱ	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b>					
授業時に指示された内容に取り組んでください。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
精神看護援助論Ⅰで学んだ精神障害に関する基礎知識を活かして、症状に合わせた援助の方法や疾患に対する看護について学ぶ。また、精神看護における関係形成のあり方や、「リカバリー」の基本概念とそれに基づいた支援の方法について学ぶことをねらいとする。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	精神看護の基本姿勢と患者－看護師関係の考え方が分かる（精神看護と倫理、ケアの原則、人間関係形成技術の基本）	講義	担当：田中1 テキスト2 資料		
2	患者－看護師関係を発展させるために必要なことが理解できる（対人関係理論：トラベルビー・ペプロウ・オーランド、プロセスレコード、治療的コミュニケーション）	講義 協同学習	担当：田中2 テキスト2 資料		
3	「リカバリー（回復）」の概念が理解でき、支援のあり方が分かる（ストレングスモデル、レジリエンス、エンパワメント）	講義 協同学習	担当：田中3 テキスト1・2 資料		
4	リカバリーのためのプログラムについて理解できる（浦川べてるの当事者研究、社会生活技能訓練、元気回復行動プラン）	講義 協同学習	担当：田中4 テキスト2 資料		
5	精神障害者の地域生活を支えるための法制度と社会資源が理解できる	講義 協同学習	担当：田中5 テキスト1・2 資料		
6	対象を理解するためのライフヒストリーを理解する方法が分かる	講義 演習（教室）	担当：田中6 テキスト1・3		
7	精神科におけるリスクマネジメントと権利擁護について理解できる（隔離、拘束、処遇、自殺、災害時の安全確保、自己決定の尊重、退院請求と処遇改善を求める権利）	講義	担当：坪井1 テキスト2 資料		

8	精神科における「入院」の意味と治療的環境の意味が分かる	講義	担当:坪井 1 テキスト 2 資料
9	精神症状に対する看護が理解できる①(妄想、抑うつ、気分高揚、不安状態、昏迷、幻覚)	講義	担当:坪井 3 テキスト 1 資料
10	精神症状に対する看護が理解できる②(意識障害、記憶障害) 精神科におけるフィジカルアセスメントの重要性と身体合併症に対する看護の必要性が理解できる	講義	担当:坪井 4 テキスト 1・2 資料
11	主要な精神疾患に対する看護について理解できる(統合失調症患者の急性期～回復期の看護、アルコール依存症患者の急性期～回復期の看護)	講義	担当:坪井 5 テキスト 1 資料
12	当事者の体験談(リカバリーの実際)を聞き、リカバリーを支えるための看護について考えることができる	講義 グループ ワーク	担当:谷 1
13	社会療法としての園芸療法の意義を理解し、看護への適用について考えることができる(園芸療法の目的・対象・効果・実際)	講義 演習(多目的 教室)	担当:萩野 1 テキスト 1 資料
14			
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b>		<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の順序はこの通りではありませんので時間割で確認して下さい。ただし、講師のまとまりではこの通りの順序です。</li> <li>・谷先生、萩野先生の授業内容に対する学習状況は田中が評価します。(レポート、筆記試験、学習への取り組み状況)</li> <li>・園芸療法の授業で使用する材料費は学生負担です。費用については、使用する材料によって異なるので、授業時にお伝えします。(1000円以内です)</li> </ul>		筆記試験(田中:50点坪井:30点) 自己学習・協同学習への取り組み 10点 レポート・ワーク 10点	
<b>使用するテキスト</b>			
1. 精神看護の基礎(医学書院 eテキスト) 2. 精神看護の展開(医学書院 eテキスト) 3. 看護のための人間発達学(医学書院 eテキスト)			
<b>参考文献</b>			
宮本眞巳ほか アディクション看護 医学書院 川野雅資 精神症状のアセスメントとケアプラン メヂカルフレンド社 川野雅資 エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 中央法規 坂田三允 統合失調症・気分障害をもつ人の生活と看護ケア 中央法規 増川ねてる WRAPを始める!元気回復行動プラン編 精神看護出版 増川ねてる WRAPを始める!リカバリーのキーコンセプトと元気に役立つ道具箱編 精神看護出版			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	杉垣 ひとみ 村尾 麻紀子 藤井 優美子
科目名	健康状態別看護	単位数	1単位		
	健康保持増進の看護	時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b>					
各看護学概論で学習した発達段階の特徴についての資料を整理し授業で活用できるように準備する。開講までに健康増進法、健康日本21について学習する。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
看護師の役割は、個々人の健康生活に向けた支援を行うことである。看護の対象は、子どもから高齢者までの全てのライフサイクルにおいて、家庭や学校、職場などで生活するあらゆる場の人を対象としている。あらゆる人々が健康な生活が送れるために必要な健康支援の基礎理論を学習し、必要な支援ができるための方法を学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	健康生活に向けた取り組みと健康活動の意義が理解できる	講義	担当：杉垣1 事前課題 資料		
2	健康支援に必要な考え方と理論が理解できる① ヘルシリーフモデル・変化のステージモデル	講義 グループワーク	担当：杉垣2 テキスト1 資料		
3	健康支援に必要な考え方と理論が理解できる① 自己効力理論・危機理論・ストレス対処法		担当：杉垣3 テキスト1 資料		
4	健康支援の方法が理解できる① 集団指導と個人指導・学習支援の基本的な考え方	講義 グループワーク	担当：杉垣4 テキスト6 資料		
5	健康支援の方法が理解できる② 学習支援過程	講義 グループワーク	担当：杉垣5 テキスト6 資料		
6	学習支援の基本－傾聴について考える－	演習(多目的室)	担当：村尾1 資料		
7	ライフステージと健康課題を捉え、健康を守る法律が理解できる① ライフステージと健康課題	講義 グループワーク	担当：藤井1 テキスト1.2.3.4.5		
8	ライフステージと健康課題を捉え、健康を守る法律が理解できる② 健康を守る法律と施策	講義	担当：村尾2 テキスト1.2.3.4.5		
9	ライフステージと健康課題を捉え、健康を守る法律が理解できる③ 女性のライフサイクルと健康 精神の健康とその活動	講義	担当：藤井2 テキスト1.2.3.4.5		
10	ライフステージ各期における健康課題と健康支援が理解できる① 幼児期・学童期	講義	担当：村尾3 テキスト1.2.3.4.5		
11	ライフステージ各期における健康課題と健康支援が理解できる② 成人期 働く人	講義	担当：藤井3 テキスト1.2.3.4.5		
12	ライフステージ各期における健康課題と健康支援が理解できる③ 高齢者 高齢者生活を守る施策と看護の役割	講義	担当：村尾4 テキスト1.2.3.4.5		
13	青年期における健康支援について考えることができる① 青年期のゲーム依存、スマートフォン依存	事例演習	担当：杉垣6 事前課題 資料		
14	青年期における健康支援について考えることができる② 青年期のゲーム依存、スマートフォン依存	事例演習	担当：杉垣7 資料		
15	終講試験				

シラバス 専門分野 健康状態別看護 健康保持増進の看護 (2)

<b>受講上の留意点</b>	<b>評価方法</b>						
前領域に及ぶ科目です。事前に教科書の学習内容に該当する箇所を確認し読んで授業に臨みましょう。授業を通して自己・周囲の人々の健康について振り返る機会とし、健康生活について考えていきます。	<table> <tr> <td>筆記試験</td> <td>80点</td> </tr> <tr> <td>学習の取り組み</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>学習態度</td> <td>10点</td> </tr> </table>	筆記試験	80点	学習の取り組み	10点	学習態度	10点
筆記試験	80点						
学習の取り組み	10点						
学習態度	10点						
<b>使用するテキスト</b>							
1. 成人看護学総論 2. 老年看護学 3. 母性看護学概論 4. 小児看護学概論 5. 精神看護学概論 6. 基礎看護技術 I (医学書院 eテキスト)							
<b>参考文献</b>							
厚生省の指標増刊 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 医歯薬出版株式会社							

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	大海貴子 吉野洋子・細見詩保代 安原沙織
科目名	健康状態別看護	単位数	1単位		
	健康回復への看護	時間数(回数)	15時間(8回)		

## 事前学習内容

各看護学概論で学習した発達段階の特徴についての資料を整理し、授業で活用出来るように準備をする

## 科目全体のねらい・授業目標

各発達段階における患者の急性期から回復、リハビリテーションまでの患者の特性を理解し、急性期から回復、リハビリテーションの病態生理を基に、健康の段階と経過に応じた看護を学ぶ。その中で、身体疾患の治療を受ける患者が陥りやすい精神保健上の問題と看護について、リエゾンの視点で精神的なケアの方法を学ぶ。

DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	急性期にある患者の心理的特徴と看護がわかる (成人、小児、高齢者の心理的特徴と看護) 回復期にある患者の心理的特徴と看護がわかる (障害受容過程、病気・障害をもつ対象者の看護)	講義	担当：大海1 テキスト.3.5.6
2	リハビリテーション看護の特徴と看護がわかる (リハビリテーションと看護・事例患者の看護)	講義 グループワーク	担当：大海2 テキスト.2.3.8
3	回復期過程をふまえた「麻痺のある患者の車椅子移乗の援助」の実践ができる	演習(実習室)	担当：大海3 テキスト.2.3.8
4	障害をもつ患者の障害受容過程、生活再構築の看護展開がわかる(ストマケアと装具装着)	講義 演習	担当：細見1 テキスト1.3.4
5	障害をもつ患者の健康回復への看護展開の実際がわかる(障害受容過程、生活再構築)	講義	担当：吉野1 テキスト1.3.4
6	障害をもつ患者の障害受容過程と看護がわかる (事例患者への看護)	グループワーク	担当：吉野2 テキスト1.3.4
7	医療の場におけるメンタルヘルスを支える看護の方法がわかる(リエゾン精神看護とその活動)	講義	担当：安原1 テキスト1.7
8	終講試験		
受講上の留意点			評価方法

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習を十分行い、主体的に授業・演習に取り組む。</li> <li>・生活者の視点を持ちながら、授業・演習に臨む。</li> <li>・自己の身に置き換えながら、看護を考える。</li> <li>・リエゾン精神看護が求められる背景を捉え、その必要性を学ぶ。</li> <li>・ストーマ装具を自身の体に実際に装着し(不具合があれば事前に申し出る)、一日生活を送る演習を行う。その体験からの気づきなどをレポートする。</li> </ul>	<p>大海：筆記試験・取り組み 課題</p> <p>吉野：筆記試験・課題 レポート</p> <p>安原：筆記試験</p>
<p><b>使用するテキスト</b></p> <p>1. 臨床看護総論 2. 基礎看護技術Ⅱ 3. 成人看護学総論医学書院 4. 消化器 5. 老年看護学 6. 小児臨床総論 7. 精神看護の展開 8. リハビリテーション看護(医学書院 eテキスト)</p>	
<p><b>参考文献</b></p> <p>看護技術プラクティス Gakken</p>	

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	杉垣 ひとみ	
科目名	健康状態別看護	単位数	1単位		伊澤 わかな	
	終末期と看護	時間数(回数)	30時間(15回)		小浜 真利子	
<b>事前学習内容</b>						
医療概論で書いたレポートを読み直し、授業ファイルに綴じる。各看護学概論で学習した発達段階の特徴についての資料を整理し授業で活用できるように準備する。 始講までに乳癌の病態と治療について学習する。事例学習で活用します。						
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>						
各発達段階における対象の終末期看護について学ぶ。具体的には、終末期にある対象者とその家族の特徴を理解し、対象者・家族が抱える苦痛を全人的に捉えるための考え方、症状緩和の方法とケア、看取りの看護についての内容を学ぶ。また、看護技術としては苦痛緩和に向けたマッサージ技術、死後の処置技術の根拠とポイントを習得する。						
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる					
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる					
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に応じて実践することができる					
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる					
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる					
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる					
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる					
<b>授業の流れ</b>						
回	学習内容と成果	方法	備考			
1	終末期の対象の理解ができる 小児期・成人期・老年期の対象者とその家族	講義 グループワーク	担当：杉垣 1 テキスト 1.2.7 資料			
2	チームアプローチの意義とチームの機能について理解できる	講義	担当：杉垣 2 テキスト 1.7 資料			
3	症状緩和とケアについて理解できる① 症状緩和の考え方・症状マネジメントモデル	講義 グループワーク	担当：伊澤 1 テキスト 1.5 資料			
4	症状緩和とケアについて理解できる② 主要な身体症状マネジメント（癌性疼痛他）とケア 日常生活を支えるケア	講義 グループワーク	担当：伊澤 2 テキスト 1.5			
5	死の受容過程と精神的ケアが理解できる① 死の受容過程とケア	講義	担当：伊澤 3 テキスト 1			
6	死の受容過程と精神的ケアが理解できる② 子どもと家族の死の受け止め方とケア	講義 グループワーク	担当：伊澤 4 テキスト 1.4			
7	死の受容過程と精神的ケアが理解できる③ 成人期・老年期における死の受け止め方とケア	講義 グループワーク	担当：伊澤 5 テキスト 1.2.3			
8	スピリチュアルケアが理解できる① 病の経験の苦悩 スピリチュアルの考え方	講義	担当：小浜 1 テキスト 1			
9	スピリチュアルケアが理解できる② スピリチュアルペイン スピリチュアルケア	講義	担当：小浜 2 テキスト 1			
10	看取りの看護が理解できる① グリフケア	講義	担当：小浜 3 テキスト 1			
11	看取りの看護が理解できる② 成人期にある人の看取り	講義	担当：小浜 4 テキスト 1.2			
12	看取りの看護が理解できる③ 臨死期にある対象者と家族の気持ちと関わり	演習（実習室）	担当：小浜 5 杉垣 テキスト 1 資料			
13	看取りの看護が理解できる④ 在宅における看取り	講義	担当：小浜 6 テキスト 1			
14	死亡時の看護が理解できる 苦痛緩和に向けたマッサージ技術の根拠とポイントが理解できる	講義 演習	担当：伊澤 6・杉垣 テキスト 6 資料 準備物品			

15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 終講時には、死生観レポートを書きます。授業中に感じたこと、考えたことを忘れないように書き留めてレポートに活用しましょう。		<b>評価方法</b>	
		筆記試験	75点
		レポート	15点
		授業態度	10点
<b>使用するテキスト</b>			
1. 緩和ケア 2. 成人看護学総論 3. 老年看護学 4. 小児看護学概論 5. がん看護 (医学書院 eテキスト)			
6. 基礎・臨床看護技術 7. 臨床看護総論 (医学書院 eテキスト)			
7. 看護過程に沿った対象看護 (医書.jp)			
<b>参考文献</b>			
触れる・癒やす・あいだをつなぐ手 TE - ARTE 学入門 看護科学社			
根拠がわかる看護マッサージ 中央法規			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	小椋貴文 上田麗 中尾祐樹 宮脇美賀子 藤原美季
科目名	健康状態別看護 周術期と看護	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b> 各発達段階(小児・成人・老年)と妊婦の特徴について、1年次に学習した内容を整理し、活用できるようにまとめておく。また、授業時に講師に指示された内容に取り組む。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> あらゆる発達段階にある人の周術期看護について学ぶ。患者・家族が手術を決定したときから、手術室へ入室し、手術の準備から術中、手術を終えて手術室を退室し、手術侵襲から回復するまでのプロセスに関わる看護について学ぶ。					
DPとの 関連	DP1	看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる			
	DP2	科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる			
	DP3	健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる			
	DP4	人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる			
	DP5	援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる			
	DP6	保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる			
	DP7	変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる			
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果		方法	備考	
1	周術期看護の概要と看護師の役割が理解できる 手術を受ける患者と家族の特徴 周術期における看護師の役割		講義・協同学習	担当：小椋1 テキスト1・2 資料	
2	麻酔および手術侵襲と生体反応が理解できる 麻酔法、創傷治癒について 手術侵襲と生体反応：ムーアの分類		講義・協同学習	担当：小椋2 テキスト1・2 資料	
3	術後合併症の機序と予防について理解できる 関連図に機序を記載		講義・協同学習	担当：小椋3 テキスト1・2	
4	術前看護について理解できる 外来における手術前患者の看護 外来における術前オリエンテーション 外来-病棟間の連携 日帰り手術を受ける患者の看護		講義	担当：上田1 テキスト1・2 資料	
5	病棟における手術前患者の看護 全身状態を整える(呼吸・循環・栄養) 病棟における術前オリエンテーション		講義	担当：中尾1 テキスト1・2 資料	
6	病棟における手術前患者の看護 手術前日・手術当日の看護 病棟-手術室間の連携		講義	担当：中尾2 テキスト1・2 資料	

7	術中の看護が理解できる 手術室看護師により術前の看護：術前訪問 手術室の安全・環境管理	講義	担当：宮脇 1 テキスト1・2 資料
8	手術室における看護の展開 入室時、麻酔導入時、手術中、手術終了後 病棟への引継ぎ：病棟-手術室間の連携	講義	担当：宮脇 2 テキスト1・2 資料
9	術後の看護が理解できる 術後の全身状態の観察とアセスメント 早期回復を促進するための看護 環境整備、早期離床、疼痛管理、輸液・栄養 管理、ドレーン管理	講義	担当：藤原 1 テキスト1・2
10	術後合併症の発生機序と予防・発症時の看護 周術期における重症集中治療を受ける患者の看護	講義 演習（実習室）	担当：藤原 2 テキスト1・2
11	術後1日目の患者の観察と報告の実際 必要な看護の検討 リフレクション	シミュレーション （実習室）	担当：藤原 3 テキスト1・2
12	特殊な術式と術後看護が理解できる 電気けいれん療法 高齢者の周術期の看護が理解できる 手術を受ける高齢者の特徴と看護	講義・協同学習	担当：小椋 4 テキスト1・3・4
13	小児期の周術期の看護が理解できる 小児の発達段階の特徴に合わせた周術期看護	講義・協同学習	担当：小椋 5 テキスト1・2
14	帝王切開術を受ける産婦の看護が理解できる 妊婦の特徴に合わせた周術期看護 帝王切開の適応・リスク・合併症	講義・協同学習	担当：小椋 6 テキスト1・2・5
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 事例を用いて周術期の一連を学習していきます。一人の患者が手術を決定し、手術を受け、手術侵襲から回復するまでの身体的・精神的・社会的側面の変化をイメージしながら学習を進めてください。また、各部署・他職種との連携にも視点を当てて学習してください。 わからない内容があれば、必ず講師に確認してください。		<b>評価方法</b> 筆記試験 90点 取り組み点 10点	
<b>使用するテキスト</b> 1. 臨床外科看護総論 2. 臨床外科看護各論 3. 精神看護学の基礎 4. 精神看護学の展開 5. 母性看護学各論（医学書院 eテキスト）			
<b>参考文献</b> 老年看護学 小児看護学概論 臨床看護総論 臨床検査（医学書院 eテキスト） 竹内登美子編 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 第3版 医歯薬出版株式会社 竹内登美子編 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版 医歯薬出版株式会社			

授業概要

<b>分野</b>	専門分野	<b>履修年次</b>	2年次	<b>担当講師</b>	櫻井幸子
<b>科目名</b>	健康状態別看護	<b>単位数</b>	1単位		
	薬物療法と看護	<b>時間数(回数)</b>	15時間(8回)		
<b>事前学習内容</b> 各看護学概論で学習した発達段階の特徴についての資料を整理し、授業で活用できるように準備する。シラバスに記載されている各疾患・症状と使用する薬剤の特徴、基本的な薬物動態の復習に取り組む。事前に指示のあった学習に取り組む。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 与薬時の看護の基礎知識を学習し、あらゆるライフステージにある対象、症状または疾患に合わせた薬物療法時の看護を学ぶ					
<b>DPとの関連</b>	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に対して実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保険医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働ができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
<b>回</b>	<b>学習内容と成果</b>		<b>方法</b>	<b>備考</b>	
1	薬物療法と看護の基礎知識が理解できる(薬物療法時の看護の特徴、各成長発達における薬物動態)		講義 協同学習	テキスト1.2.3.4	
2	対象(妊産婦、小児期、成人期、老年期)に応じた薬物療法時の看護が理解できる			テキスト3.4.6	
3				配布資料	
4	各症状、疾患(循環不全・認知症・気管支喘息)に応じた薬物療法時の看護が理解する		講義 演習(実習室)	テキスト1.4.6.7	
5	中枢神経に作用する薬を服用する対象と生活の影響が理解できる(催眠薬・抗精神病薬・抗不安薬・気分安定薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬)		講義 ポストテスト	テキスト1.7.6	
6	各症状、疾患(パーキンソン症候群治療薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗てんかん薬)に応じた薬物療法時の援助計画が立案し、共有後それぞれの看護を考察できる		ジグソー学習 ポストテスト	テキスト1.7.6	
7				配布資料	
8	終講試験		筆記試験		
<b>受講上の留意点</b> 各授業前に指示されている事前学習が看護を考える基礎となります。指示通りに進め、協同の精神を大切に授業に臨んでください。			<b>評価方法</b> 筆記試験 取り組み状況 事前学習・グループ学習状況		
<b>使用するテキスト</b> 1. 臨床薬理学(医学書院 e-テキスト) 2. 基礎看護技術I(医学書院 e-テキスト) 2. 老年看護学(医学書院 e-テキスト) 4. 成人看護学総論(医学書院 e-テキスト) 5. 小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院 e-テキスト) 6. 母性看護学各論(医学書院 e-テキスト) 7. 精神看護の基礎(医学書院 e-テキスト) 精神看護の展開(医学書院 e-テキスト)					
<b>参考文献</b> 食見忠弘著 看護学生のための薬理学ワークブック 医学書院 薬理学 (医学書院 e-テキスト) 薬がみえる Vol.1 メディックメディア 病気が見える Vol.10 メディックメディア					

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	谷口 留充
科目名	健康状態別看護	単位数	1単位		
	看護展開方法の活用	時間数(回数)	30時間(15回)		
<b>事前学習内容</b>					
各看護学概論で学習した発達段階の特徴が活用できるようまとめておきましょう。その他の事前学習については授業時に指示します。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
看護過程は看護の目的を果たすための一つの方法である。つまり、看護実践における目的を果たすためには、看護の知識体系に基づき看護を展開する思考が重要となる。看護展開方法の活用では、基本的な看護展開方法の知識を用いて、対象の疾患や健康課題、発達段階の背景などを関連付け、各看護学の特徴をふまえた看護展開の方法を学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探求し続けることができる。				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果	方法	備考		
1	成人看護の看護展開：成人看護展開における基本的な考え方がわかる。 事例：高血圧性脳出血患者（回復期）	講義 個人ワーク	テキスト1、2、9		
2	成人看護の看護展開：立体像モデルを用いた対象理解、看護問題の抽出ができる	協働学習	テキスト1、2、9		
3	成人看護の看護展開：看護目標の設定と看護計画の立案ができる	講義 グループワーク	テキスト1、2、9		
4	成人看護の看護展開：成人看護の基本的アプローチをふまえ回復過程にある成人への看護が検討できる。	協働学習	テキスト1、2、9		
5	成人看護の看護展開：成人看護の基本的アプローチをふまえ回復過程にある成人への看護が検討できる。	協働学習	テキスト1、2、9		
	老年看護の看護展開：老年看護展開における基本的な考え方がわかる。 事例：脳梗塞（回復期）	講義 個人ワーク	テキスト1、3、9 資料		
6	老年看護の看護展開：立体像モデルを用いた対象理解、看護の焦点の抽出ができる。	協働学習	テキスト1、3、9 資料		
7	老年看護の看護展開：看護目標の設定と看護計画が立案できる。	講義 グループワーク	テキスト1、3、9 資料		
8	老年看護の看護展開：対象の強み、望む生活を見据えた看護の検討ができる。	協働学習	テキスト1、3、9 資料		
	母性看護の看護展開：母性看護展開における基本的な考え方がわかる。	講義 個人ワーク	テキスト8		
9	母性看護の看護展開：妊娠期から産褥期の経過をとらえることができる。新生児の経過をとらえることができる。事例：正常経過にある褥婦と新生児	講義 グループワーク	テキスト8		

10	母性看護の看護展開：産褥期・新生児期にある対象の順調な経過促進に向けた看護の検討ができる	協働学習	テキスト8
11	母性看護の看護展開：産褥期・新生児期にある対象の経過と順調な経過促進に向けた看護の検討ができる。	協働学習	テキスト8
	小児看護の看護展開：小児看護展開における基本的な考え方がわかる。	講義 個人ワーク	資料
12	小児看護の看護展開：患児の経過をとらえることができる。事例：気管支喘息（急性期・幼児期）	講義 グループワーク	テキスト4、5
13	小児看護の看護展開：小児の成長発達段階、急性期にある患児の特徴をふまえた看護の検討ができる	協働学習	テキスト4、5
14	小児看護の看護展開：小児の成長発達段階、急性期にある患児の特徴をふまえた看護の検討ができる	協働学習	テキスト4、5
	精神看護の看護展開：ライフヒストリー、疾患と症状、治療経過のアセスメントができる。 事例：統合失調症（回復期・成人期）	講義 個人ワーク	テキスト6、7
15	精神看護の看護展開：ライフヒストリー、疾患と症状、治療経過と生活への影響をふまえ、看護援助の方向性が検討ができる。	協働学習	テキスト6、7
<b>受講上の留意点</b> 看護展開方法の基礎で学習したことを基盤に、各看護学の展開を事例を用いて学びます。既習知識を引き出しながら、主体的に取り組んでください。授業内では、各自の考えを共有、吟味し、各看護学の特徴をふまえた看護展開の思考を養っていきましょう。また、筆記試験はありません。事例課題の到達状況と取り組み状況で評価します。尚、使用するテキストとして示しているのは一部です。展開時必要なテキストや授業資料を用いて取り組んで下さい。		<b>評価方法</b> 事例課題の到達状況 (成人21点、老年14点、母性14点、小児14点、精神7点) 授業の取り組み状況 (成人9点、老年6点、母性6点、小児6点、精神3点)	
<b>使用するテキスト</b> 1. 基本的看護技術 I 2. 成人看護学総論 3. 老年看護学総論 4. 小児概論・小児臨床総論 5. 小児臨床各論 6. 精神看護の基礎 7. 精神看護の展開 8. 母性看護学各論 (医学書院 e テキスト) 9. 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第5版 ニューベルヒロカワ			
<b>参考文献</b> 臨床検査 (医学書院 e テキスト) 生活機能からみた老年看護過程+生活機能関連図 第4版 医学書院 ウェルネスからみた母性看護過程 第3版 医学書院 発達段階からみた小児看護過程 第5版 医学書院 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント第5版 学研メディカル集潤社			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	3年次	担当講師	岸 岳美 伊来かよ子 猪飼 恵美
科目名	看護管理と医療安全	単位数	1単位		
		時間数(回数)	30時間(15回)		

## 事前学習内容

授業時に指示された内容に取り組んでください。

## 科目全体のねらい・授業目標

本科目における「看護管理」では人的・物的・財的資源を効果的に活用するしくみとそのマネジメントの基本について学び、チーム医療の中で看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容とする。

「医療安全」においては、看護は何より対象者にとっての安全を優先しなければならない中で、看護者としてリスク感性を高め、的確な判断力と技術を習得することの重要性と医療安全に関する知識を習得し、事故防止の認識を高めることをねらいとする。

DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。

## 授業の流れ

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護におけるマネジメントの基本的知識が理解できる。(看護管理の定義、看護におけるマネジメント、これからの看護職に求められるマネジメント)	講義	担当:岸・伊来1 テキスト1 資料
2	チーム医療・看護におけるマネジメントの実際が理解できる① (看護ケアのマネジメント:患者の権利の尊重、安全管理)	講義	担当:岸・伊来2 テキスト1 資料
3	チーム医療・看護におけるマネジメントの実際が理解できる② (看護ケアのマネジメント:チーム医療、看護業務の実践)	講義	担当:岸・伊来3 テキスト1 資料
4	チーム医療・看護におけるマネジメントの実際が理解できる③ (看護サービスのマネジメント:看護の組織化、看護サービスの提供方式、「ヒト」のマネジメント、看護職のキャリア支援、「モノ」のマネジメント、「カネ」のマネジメント、情報のマネジメント、サービスの評価)	講義	担当:岸・伊来4 テキスト1 資料
5	リーダーシップとマネジメントについて理解できる。(組織とマネジメント、リーダーシップの定義、組織の調整)	講義	担当:岸・伊来5 テキスト1 資料
6	医療安全と看護師の責務について理解できる① (医療事故と看護業務、看護事故の構造、看護事故防止の考え方)	講義	担当:猪飼1 テキスト2 資料
7	診療の補助業務における事故防止について理解できる① (注射業務と事故防止)	講義	担当:猪飼2 テキスト2 資料

8	診療の補助業務における事故防止について理解できる②（輸液ポンプ・シリンジポンプの事故防止、輸血業務と事故防止）	講義	担当：猪飼 3 テキスト 2 資料
9	診療の補助業務における事故防止について理解できる③（内服と薬業務と事故防止、経管栄養業務と事故防止）	講義	担当：猪飼 4 テキスト 2 資料
10	療養上の世話における事故防止について理解できる①（転倒・転落事故防止）	講義	担当：猪飼 5 テキスト 2 資料
11	療養上の世話における事故防止について理解できる②（摂食中の窒息・誤嚥事故防止、異食事故防止、入浴中の事故防止）	講義	担当：猪飼 6 テキスト 2 資料
12	業務領域を越えて共通する間違いと発生要因について理解できる。（患者間違いと発生要因、患者間違いを防ぐためのシステム） 医療安全とコミュニケーションについて理解できる。（チーム医療におけるコミュニケーションの重要性、医療職種間のコミュニケーション、患者・家族とのコミュニケーション）	講義	担当：猪飼 7 テキスト 2 資料
13	地域における在宅療養者の安全について理解できる。（看護師が行う医療行為における医療事故、服薬支援と薬剤の管理、家庭内での転倒・転落、火災） 看護師の労働安全衛生上の事故防止について理解できる。（職業感染、抗がん剤の暴露、放射線被爆、ラテックスアレルギー、腰痛、暴力）	講義	担当：猪飼 8 テキスト 2 資料
14	組織的な安全管理体制への取り組みについて理解できる。（安全文化の4要素、安全管理指針、事故報告とヒヤリ・ハット報告、RCA分析法、SHELモデルと分析）	講義	担当：猪飼 9 テキスト 2 資料
15	終講試験		
<b>受講上の留意点</b> 3年次の総合実習時にはこの科目で学んだことを、そのまま臨地でその実際を学ぶこととなります。当然のことですが、1回1回の講義を確実な学びになるように取り組んでください。		<b>評価方法</b> 筆記試験 （岸・伊来：35 猪飼：65点）	
<b>使用するテキスト</b> 1. 看護管理 2. 医療安全（医学書院 e テキスト）			
<b>参考文献</b> 看護学概論（医学書院 e テキスト） 川村治子「医療安全ワークブック」医学書院			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	山本智恵子 山本信介
科目名	災害看護と国際協力	単位数	1単位		
		時間数(回数)	15時間(8回)		
<b>事前学習内容</b>					
協同学習のテーマは「SDGs」。17の目標のうち、医療・看護に関する目標について学習を深めておく。それ以外でも授業時に指示された内容について取り組む。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
災害看護とは、災害時だけでなく災害サイクル全てに関わる活動である。災害直後から支援できるための基礎的知識・技術、救援チームの一員として冷静に行動できるための基本的な態度を学ぶ。さらに、看護専門職として防災に対する意識を高める重要性を理解する。国際協力では、国際的な医療・看護活動の仕組みや実際、グローバルな視点で健康課題をとらえ看護の役割を果たしていくことの必要性を学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP3 健康の保持・増進・疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	災害医療と災害看護の特徴を理解する 災害医療の基礎知識：定義と種類、健康障害・健康被害、法制度、支援体制と医療制度 災害看護の基礎知識：定義、対象、特徴			講義	担当：山本信 1 教科書 1 資料
2	災害サイクルに応じた看護の役割を理解する 急性期・亜急性期の看護：初動体制・傷病者の受け入れと対応、感染制御、トリアージ				担当：山本信 2 教科書 1 資料
3	災害サイクルに応じた活動を理解する 慢性期・復興期の看護：被災住民への生活支援、災害ボランティア活動、生活に必要なリハビリテーション、災害とこころのケア				担当：山本信 3 教科書 1 資料
4	災害サイクルに応じた活動を理解する 静穏期の看護：病院防災としての備え、災害看護教育、地域防災				担当：山本信 4 教科書 1 資料
5	国際看護の概要を理解する グローバル化、プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション、安全保障、健康格差、異文化理解			講義	担当：山本智 1 教科書 1 資料
6	国際協力における看護活動について理解する 世界共通の健康問題 SDGs			協同学習	担当：山本智 2 教科書 1 資料
7	国際協力活動と看護の対象、展開過程を理解する			講義	担当：山本智 3

	国際協力のしくみ、機関、役割、国際救援活動と看護		教科書 1 資料
8	終講試験	筆記	
<b>受講上の留意点</b> 日頃から地域・メディア・新聞・雑誌などの情報に関心を持ち授業に臨みましょう。最終、学習ファイルの提出をもとめます。		<b>評価方法</b> 担当：山本信 配点 60 点 担当：山本智 配点 40 点 (筆記試験 23 点、授業取り組み 17 点)	
<b>使用するテキスト</b> 1. 災害看護学・国際看護学 (医学書院 e テキスト)			
<b>参考文献</b> 知って考えて実践する 国際看護 第3版 医学書院			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	3年次	担当講師	田中佳代子
科目名	看護の統合	単位数	1単位		
		時間数(回数)	45時間(23回)		
<b>事前学習内容</b>					
<p>事例学習では「脳梗塞」「運動機能」「摂食機能」、各種看護技術に関連する知識が必要です。 これまでに学習したことを活かして事前準備をしておいて下さい。</p>					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b>					
<p>本科目では、1年次から積み上げてきた「臨床看護総論Ⅰ・Ⅱ」「看護展開方法の基礎・活用」といった看護を考えるための基本的な思考を統合させて、“看護師のように考える”思考により近づけるための学習内容を設定する。また、様々な場で暮らす、様々なライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る援助の提供に向けて、各種専門職の特性を活かしながら対象の目標達成に向けて多職種が連携するあり方について学び、多職種との協働の中で看護専門職者として「自分には何ができるのか」を考える力を育成することを目的とした学習内容を含むものとする。</p>					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
<b>授業の流れ</b>					
回	学習内容と成果			方法	備考
1	<p>看護師に求められる能力が理解できる。 (臨床判断能力、多職種との連携・協働する力、多様な場で看護を提供する力、ICTを活用する力)</p>			講義	テキスト1 資料
2	<p>回復期にある事例の状況を解釈する① コンセプト：①動く ②食べる ③脳梗塞(機能障害)</p>			演習(教室) 協働学習 コンセプト学習	テキスト1 資料
3	<p>回復期にある事例の状況を解釈する② コンセプト：①動く ②食べる ③脳梗塞(機能障害) 3つの推論パターンに基づく解釈</p>			演習(教室) 協働学習 コンセプト学習	テキスト1 資料
4	<p>回復期にある事例の状況を解釈する③ 事例の対象者に必要な看護援助を導き出す。 (必要な観察点、必要な看護を明確にする)</p>			演習(教室) 協働学習 コンセプト学習	テキスト1 資料
5	<p>回復期にある事例の状況に対して臨床判断する① 「気づき」→(情報収集)→「解釈する」→「反応する」→</p>			演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・2 演習計画
6	<p>実施した援助の「省察」(リフレクション)を言語化する。</p>				

7	回復期にある事例の状況に対して臨床判断する② 「気づき」→(情報収集)→「解釈する」→指導者への報告と援助計画の調整→「反応する」→実施した援助を指導者に報告し、行った援助を「省察」(リフレクション)する。	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・2 演習計画
8	回復期にある事例の状況に対して臨床判断する③ (第7回講義と同様の学習内容)	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・2 演習計画
9	<b>客観的臨床能力試験(OSCE)前期</b> OSCEと実施後のリフレクションにより、看護実践能力における事故の課題を明確にする。(知識確認テスト)	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト2 試験計画
10	1) OSCEでの実践から得た学びと課題を共有する。 2) 各専門職の役割と多職種連携の必要性を理解する。 ①・②を領域別実習での自己の看護実践につなげる。	講義 グループワーク	テキスト3・4 資料
11	リハビリ期にある事例の状況を解釈する① 3つの推論パターンに基づいて事例の状況を解釈する。	演習(教室) 協同学習	テキスト1 資料
12	リハビリ期にある事例の状況を解釈する② (第11回講義と同様の学習内容)	演習(教室) 協同学習	テキスト1
13	リハビリ期にある事例の状況を解釈する③ 解釈したことを踏まえ、在宅生活を見え据えて「今」必要な看護援助を導き出す。	演習(教室) 協同学習	テキスト1
14	リハビリ期にある事例の状況に対して臨床判断する① 事例の状況を瞬時に解釈し、その場の状況に応じた看護援助を実施する。実施したケアを振り返り次の援助に活かす。他職種の専門性を理解し、事例の状況に適用する。	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・3・4 演習計画
15	リハビリ期にある事例の状況に対して臨床判断する② (第14回講義と同様の学習内容)	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・3・4 演習計画
16	リハビリ期にある事例の状況に対して臨床判断する③ (第14回講義と同様の学習内容)	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・3・4 演習計画
17	リハビリ期にある事例の状況に対して臨床判断する④ (第14回講義と同様の学習内容)	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・3・4 演習計画
18	在宅生活に向かう事例の状況に対して臨床判断する① 事例の状況を瞬時に解釈し、その場の状況に応じた看護援助を実施する。実施したケアを振り返り次の援助に活かす。対象者と家族が安心して在宅生活に移行するために必要な援助を考える。社会資源の活用について考える。	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・3・4 演習計画
19	在宅生活に向かう事例の状況に対して臨床判断する② (第18回講義と同様の学習内容)	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・3・4 演習計画
20	在宅生活に向かう事例の状況に対して臨床判断する③ <b>多職種カンファレンスの開催</b>	演習(多目的教室) 模擬カンファ	テキスト3・4 演習計画

	各専門職の役割と機能の実際が理解できる。多職種との「共通性」と「異質性（お互いの役割の違い）」が理解できる。	レンス	
21	在宅生活に向かう事例の状況に対して臨床判断する④ (第 18 回講義と同様の学習内容+多職種カンファレンスで話し合った内容を活かした看護援助の実践。)	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト1・2 演習計画
22	<b>客観的臨床能力試験 (OSCE) 後期</b> OSCE と実施後のリフレクションにより、看護実践能力における事故の課題を明確にする。(知識確認テスト)	演習(実習室) シミュレーション学習	テキスト2 試験計画
23	OSCE での実践から得た学びと課題を共有し、これからの自己の看護実践に活かす。	講義 グループ ワーク	資料
<b>受講上の留意点</b> 協同学習を主体とした授業を行います。各自が事前・事後学習を確実に行わなければ授業が成り立ちません。学習者としての責任を果たすことを意識して授業に臨んでもらえることを期待します。		<b>評価方法</b> OSCE (前期 25 点・後期 40 点) 知識確認テスト (20 点) レポート (5 点) 学習への取り組み状況 (10 点)	
<b>使用するテキスト</b> 1. 臨床看護総論 2. 基礎看護技術 I 3. 看護学概 4. 看護管理 (医学書院 e テキスト) 3. 看護過程に沿った対症看護 (医書 jp)			
<b>参考文献</b> 基礎看護技術 II、地域・在宅看護の基礎・実践、呼吸器、脳神経、老年看護病態・疾病論、解剖生理学 I、栄養学、病理学、薬理学、リハビリテーション看護 [からみた] 基礎・臨床看護技術 (医学書院 e テキスト) 看護形態機能学 (医書 jp) 生体のしくみ 標準テキスト新しい解剖生理 医学映像教育センター			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	1年次	担当講師	杉垣ひとみ 全教員
科目名	基礎看護学実習 I	単位数	1単位		
		時間数	45時間		
事前学習内容 実習前オリエンテーションを受けて明らかになった実習までの準備について計画的に取り組む。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 地域で生活している対象者が入院することで変化する環境や患者になることの思いや考えを知り、療養環境を整え、対象者の思いに寄り添った関りを学ぶ。また、対象者の状態・状況に応じた生活援助技術を提供し、看護実践の意義を学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、他職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に適応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
時間	目標と学習内容				
45	1. 看護の対象としての入院患者と療養環境を知ることができる  2. 対象者との人間関係を形成し、そのプロセスから対人関係における自己の傾向を知ることができる  3. 対象者の健康上のニーズを明らかにすることができる  4. 生活援助技術と観察技術を実際に適用して基本的欲求の充足をはかることができる  5. 対象者とのかかわりを通して、看護とは何かを述べるができる  6. 実習を通して自己の成長と課題が明らかになる	1) 対象者の入院目的の把握 2) 対象者の療養環境の実際の観察と環境整備 3) 対象者の入院生活状況の把握とその思い  1) 対象者を尊重した態度 2) 自己の対人関係の傾向に気づく 3) 自己洞察の重要性  1) 対象者の病理的状态 2) 対象者の基本的欲求に影響を及ぼす常在条件 3) 対象者の生活行動としての基本的欲求の状態 4) 対象者の入院・病気・治療に対する受け止め 5) 対象者の思い  1) 対象者のバイタルサイン、症状観察 2) 基本的欲求充足のための援助提供 3) 自己の援助の評価  1) 実習を通して学生－患者の関り 2) 看護の視点 3) 援助過程を振り返って看護の言語化  1) 実習期間の学習の取り組みの振り返り 2) 自己の成長と課題			
履修上の留意点				評価方法	
実習の概要、実習要項を読み、臨地で守らなければいけないことを確認した上で実習に臨む。また、初めての実習であることを認識し自己判断せずに報告・連絡・相談を実行する。				実習目標到達状況（ルーブリック）にもとづく評価（90点） 実習態度評価（10点）	

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	2年次	担当講師	杉垣ひとみ 全教員
科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単位数	2単位		
		時間数	60時間		
事前学習内容 実習前オリエンテーションを受けて必要な知識・技術を具体的に計画的に準備を進める。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 本実習ではハダゲツのニード論に基づいて「その人」をとらえ、その人の基本的欲求の充足に向け、アセスメント・看護計画の立案・実施・評価を行う。また、対象者を取り巻く医療・看護チームの役割を理解し、学生と対象者との関係形成過程を振り返り、よりよい看護とは何か、自己の看護に対する考えを深めることをねらいとする。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、他職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に適応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
時間	目標と学習内容				
60	<ol style="list-style-type: none"> <li>対象者を基本的欲求の状態、常在条件、病理的状态の視点から総合的にとらえ、「その人」を理解することができる</li> <li>援助の必要性を考え、対象者にあった援助を計画できる</li> <li>対象者の安全・安楽・自立を考え、基本的欲求を充足させるための生活援助を実施し、評価できる</li> <li>対象者を取り巻く医療・看護チームの役割について考えることができる</li> <li>対象者との関係形成過程を振り返り、自己の成長と課題に気づくことができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>対象者の基本的欲求を充足する生活行動としての基本的看護の構成要素をとらえる</li> <li>対象者の基本的欲求に影響を及ぼす病理的状态をとらえ、その原因・誘因を考える</li> <li>対象者の基本的欲求を左右させる心理・社会的側面（常在条件）をとらえる</li> <li>対象者の全体像をとらえる</li> <li>対象者の援助の必要性、あるいは看護上の問題点を導き出す</li> <li>「その人」に合った看護計画を立案する</li> <li>計画に基づいて援助を実施する</li> <li>実践過程において対象者の安全・安楽・自立を考慮する</li> <li>援助の過程及び結果を評価する</li> <li>対象者にどのような人が関わっているかを説明する</li> <li>学生の援助過程において看護チームとの連携の必要性を考え、調整する</li> <li>対象者との関係形成過程を説明する</li> <li>自己のありようが関係形成に影響をもたらしている場面・出来事として成長、課題を説明する</li> </ol>			
履修上の留意点				評価方法	
実習の概要の「学生として責任を果たすべき行動」について確認し、常に意識して行動する。受け持ち看護師と調整し、積極的に受け持ち対象者の援助に参加する。				実習目標到達状況（ルーブリック） にもとづく評価（90点） 実習態度評価（10点）	

## 授業概要

<b>分野</b>	専門分野	<b>履修年次</b>	2 年次	<b>担当講師</b>	小椋 貴文 全教員
<b>科目名</b>	看護展開実習	<b>単位数</b>	2 単位		
		<b>時間数</b>	90 時間		
<b>事前学習内容</b> 実習要項内に指示しています。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 成人期にある対象者の身体的・精神的・社会的特徴を捉え、健康障害により治療が必要となった対象者の生活の変化を理解し、健康回復に向けた看護援助について学ぶ。					
<b>DP と の関連</b>	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>時間</b>	<b>目標と学習内容</b>				
<b>90</b>	1. 成人期の発達段階の特徴をふまえ対象者を総合的に理解できる	1) 生活者としての理解 2) 生活の再構築について考える 3) 病態と治療の経過から健康段階を判断する			
	2. 成人期にある人の健康回復・苦痛の軽減に向けた看護援助を行い、成果を検討する	1) 生活再構築に向けた援助の実施 2) 看護計画の立案、実施、評価 3) 看護の根拠、目的、方法の説明と意思決定			
	3. 対象者と適切な関係を築き、その関係形成過程を振り返り、自己の成長と課題に気づくことができる	1) 対象者に関心を寄せ、訴えや思いを聴き、気持ちを汲み取る 2) 双方向コミュニケーション			
	4. 健康回復に向けた保健・医療・福祉チームの連携の実際と看護の役割と責任について理解できる	1) 病棟における医療チームとの連携と看護役割 2) チームの一員としての行動			
	5. 対象者に行われている看護に問題意識を持ち、看護について考える	1) 対象者への看護援助に問題意識を持ち振り返る 2) 健康回復に向けた看護を考える 3) 自己の看護者としての成長と課題の明確化			
<b>履修上の留意点</b> 実習の概要・実習要項を熟読し取り組みましょう。				<b>評価方法</b> 実習目標到達状況（ルーブリック） にもとづく評価（90点） 実習態度評価（10点）	

## 授業概要

<b>分野</b>	専門分野	<b>履修年次</b>	3年次	<b>担当講師</b>	坂本真由美
<b>科目名</b>	地域・在宅看護論	<b>単位数</b>	2単位		
		<b>時間数</b>	90時間		
<b>事前学習内容</b> 実習要項に示した内容に取り組みましょう					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 地域で生活する対象を理解し、主体性を尊重したその人らしい生活を維持するための在宅看護を理解するとともに、保健・医療・福祉チームとの連携、協働と看護職の役割を学ぶ					
<b>DPとの関連</b>	DP1 看護の対象である人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、他職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に適応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探索し続けることができる。				
<b>時間</b>	<b>目標と学習内容</b>				
90時間	1. 地域で生活する対象の、様々な生活状況を踏まえた療養上の課題が理解できる	1) 地域で生活する対象と家族をとらえる視点 (1) 総合的機能の4領域 (①疾患・医療的ケア、②活動、③環境、④理解・意向) をとらえる (2) 強みと弱みからとらえる 2) 地域で生活する対象者と家族の生活アセスメント、病態と症状のアセスメント、家族のアセスメント			
	2. 地域でその人らしい生活を継続するための、地域・在宅看護の基本が理解できる	1) 対象に行われているケア支援への参加 2) 健康状態・発達段階・生活状況に応じた看護 3) 臨床判断、症状マネジメント 4) 生活の主体である対象の意思決定・自立支援 5) 支援者としての人間関係形成 6) ケアマネジメント、リスクマネジメント 7) 健康危機時の看護、災害看護			
	3. 地域で生活する対象者と家族の暮らしを支えている関係職種との連携と協働の実際から、看護職の役割と機能が理解できる	1) 社会資源(4つの助)のアセスメント 2) 対象と家族の暮らしから考える地域共生社会と地域包括ケアシステムにおける看護 3) 多職種との連携、協働と看護職の役割、機能			
	4. 自己の看護について振り返り、学習課題を明らかにできる	1) 地域共生社会における地域で生活する対象と家族を支える看護の課題 2) 看護実践者としての自己を振り返り、学習課題を明らかにできる			
<b>履修上の留意点</b> 実習期間中、実習場所が複数(南但訪問看護センター(3つのサテライトを含む)・地域医療連携室に分かれます。グループの力を発揮して計画的に取り組みましょう。実習要項を熟読し、臨みましょう。				<b>評価方法</b> 実習目標到達状況(ルーブリック)にもとづく評価(90点) 実習態度評価(10点)	

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	3年次	担当講師	櫻井 幸子
科目名	老年看護学実習	単位数	2単位		
		時間数(回数)	90時間		
<b>事前学習内容</b> 実習要項内に示しています					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 施設を利用している対象を通して、老年期の特徴を理解し、老化に伴う疾病、障害とその家族のもつ課題をアセスメントし、対象の生活過程を中心に安全、安楽、自立・自律を踏まえ、尊厳を守り科学的根拠に基づく看護実践能力を養う。また、社会資源の活用、多職種連携における看護師の役割と責任について理解する。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を健康状態やその変化に対して実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保険医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働ができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
時間	科目目標	内容			
90	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある人を包括的に捉え理解できる。</li> <li>2. 対象者の望む生活の実現にむけた看護実践を行うことができる。</li> <li>3. 老年期にある人との人間関係を構築できる。</li> <li>4. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割と責任、多職種や地域との連携を理解し、連携・協働するための基本的能力を身につける。</li> <li>5. 老年期にある人への看護の役割と責任を考える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年期にある対象者の身体的・精神的・社会的特徴</li> <li>2) 対象者の生活史、人生観、価値観や願い、望む生活</li> <li>3) 老年期のこれまでの生活環境や社会的背景</li> <li>4) 対象者のもてる力・強み、対象者の望む生活を困難にする要因の明確化(健康障害と症状、治療・処置・検査と看護)</li> <li>1) 施設で生活する対象者の加齢変化、疾患、症状、治療をふまえた日常生活の援助の実施</li> <li>2) 正確なバイタルサイン測定、フィジカルアセスメント</li> <li>3) 対象者のもてる力や強みを活かした看護の実施と援助過程の考察(対象者の残存機能・自立を考慮した安全・安楽な援助の実施、予防的関り、アクティビティケア)</li> <li>4) 対象者とその家族の意思決定への支援</li> <li>1) 対象者との関わりから人間関係構築のプロセスの考察(発達段階・加齢変化をふまえ、対象の意思を尊重)</li> <li>2) 人間関係構築における自己の課題の明確化</li> <li>1) 対象者とその家族が望む生活を支えるための、制度や社会資源、多職種や地域との連携(必要な情報の報告・連絡・相談技術、多職種の役割)</li> <li>2) 地域包括ケアシステムと施設の関連の理解(高齢者保健・医療・福祉制度と動向、介護保険制度)</li> <li>3) 施設における看護の役割、他職種の専門性とチーム連携(医療安全対策、チームの一員としての関わり)</li> <li>1) 介護老人保健施設での看護師の役割と職責の範囲</li> <li>2) 老年看護の責務、医療倫理、看護倫理、看護者の倫理綱領</li> </ol>			
<b>受講上の留意点</b> 実習の概要・実習要項を熟読し取り組みましょう。				<b>評価方法</b> 実習目標到達状況(ルーブリック)にもとづく評価、実習態度評価、出席状況	

## 授業概要

<b>分野</b>	専門分野	<b>履修年次</b>	3年次	<b>担当講師</b>	小椋 貴文
<b>科目名</b>	周術期看護実習	<b>単位数</b>	2単位		
		<b>時間数</b>	90時間		
<b>事前学習内容</b> 実習要項内に指示しています。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 成人期・老年期にある対象者の身体的・精神的・社会的特徴を捉え、手術侵襲から心身の安定に向けて順調な回復過程をたどるための看護を学ぶ。					
<b>DP との関連</b>	DP1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
<b>時間</b>	<b>目標と学習内容</b>				
<b>90</b>	1. 成人期・老年期の発達段階の特徴を踏まえ、対象者を総合的に理解することができる	1) 生活者としての理解 2) 急激な変化状態にある対象者の病態と治療			
	2. 成人期・老年期にある人の手術侵襲から順調な回復過程をたどるための看護援助ができる	1) 回復過程のアセスメント 2) 回復過程の促進と合併症予防に向けた援助 3) 苦痛緩和に向けた援助 4) 社会生活適応に向けた援助			
	3. 対象者との援助的関係を形成、発展をさせ、自己決定できる関わりができる	1) 変化する心理と受け止めへの支援 2) 必要な情報の提供と意思決定			
	4. 周術期における保健・医療・福祉チームの連携の実際と看護師の役割と責任について理解し、連携・協働するために必要な基本的能力を身につける	1) 対象者を取り巻く医療従事者間の協働 2) チーム医療の連携と看護師の役割 3) チームの一員としての責任ある行動 4) 安全なケアが行われるための環境の確保			
	5. 自己を振り返り、今後の学習課題が明らかになる	1) 自己の看護者としての成長と課題			
<b>履修上の留意点</b> 実習の概要・実習要項を熟読し取り組みましょう。				<b>評価方法</b> 実習目標到達状況（ルーブリック） にもとづく評価（90点） 実習態度評価（10点）	

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	3年次	担当講師	大海貴子
科目名	健康回復期看護実習	単位数	1単位		
		時間数	45時間		
<p><b>事前学習内容</b> 急性期を脱し回復過程にある対象者の心身機能アセスメントの視点を復習し、意図的な情報収集ができるように準備する。また、検査データ、治療（薬物療法）の情報が整理できるように工夫する。</p>					
<p><b>科目全体のねらい・授業目標</b> 成人期・老年期の特徴を踏まえ、それぞれの人が健康障害から回復に至る過程の看護について学ぶ。</p>					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、他職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に適応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探求し続けることができる。				
時間	目標と学習内容				
45	1. 成人期・老年期の発達段階の特徴をふまえ、健康の回復・苦痛の軽減に向けた看護が実践できる	1) 成人期・老年期の特徴を踏まえた発達段階・生活理解 2) 対象者の病理的状态と治療・処置・検査 3) 健康障害の受け止め方と回復への認識 4) 対象者と共に創る看護計画 5) 生活援助を中心とした看護の実践 6) 計画した援助を実施し評価			
	2. 対象者と援助的関係を形成、発展させることができる	1) 相互理解を図り、信頼関係を構築 2) 相手を尊重したコミュニケーション			
	3. 保健・医療・福祉チームの連携の実際と看護の役割と責任について理解でき、連携・協働するために必要な能力を身につける	1) 退院後の生活を見通したチーム医療の連携 2) チームの一員としての責任ある行動 3) 看護専門職の役割			
	4. 対象者に行われている看護に問題意識をもち、看護について考える	1) 対象者への看護援助を振り返り、健康回復に向けた看護について考える 2) 自己の看護者としての成長と課題の自覚			
履修上の留意点				評価方法	
実習1日目に多職種のオリエンテーションが行われます。事前に回復期リハビリ病棟における多職種の役割について学習し目的を持って参加しましょう。				実習目標到達状況（ルーブリック）	
受け持ち対象者に関する看護について、受け持ち看護師、チームリーダー、他職種と情報共有を行い、援助調整を積極的に行いましょう。				にもとづく評価（90点）	
				実習態度評価（10点）	

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	3年次	担当講師	杉垣ひとみ
科目名	終末期看護実習	単位数	1単位		
		時間数	45時間		
<b>事前学習内容</b> 2年次に書いた死生観レポートを読み直し、実習ファイルに綴じる。対象者を理解するために必要なアセスメントの視点を復習し、意図的な情報収集ができるように準備する。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> がんと診断されて全人的な苦痛と対峙する対象者を通して、対象者の望む生き方ができるための看護について学ぶ。成人期にある対象者、老年期にある対象者の死の受け止めを捉え、対象者の全人的苦痛を受け止めようとする取り組み、人間関係形成過程を大切に開く。また、苦痛の緩和、日常生活援助を實踐し、発達段階の特徴を踏まえた対象者の望む生活に向けた看護を学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、他職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に適応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
時間	目標と学習内容				
45	1. 成人期・老年期の発達段階を踏まえて対象が理解できる	1) 対象者の過去・現在の病気と共にあった生活、社会背景、人生史、価値観に目を向けて生活を捉える 2) 対象者の病態と治療経過から苦痛を捉え緩和方法を理解 3) 対象の抱える全人的苦痛を捉え、苦痛緩和に向けた援助を考える			
	2. 成人期・老年期にある人の生きることを支え、その人らしい最期を迎えるための援助を考え実践できる	1) 援助の説明と同意 2) 対象者の不安・苦痛の理解と苦痛緩和 3) 安全・安楽・自立を考慮した日常生活援助 4) 対象者のその人らしくある支援を考える			
	3. 対象者との関係形成過程を振り返り、看護師としての姿勢が理解できる	1) 双方向コミュニケーションによる相互理解 2) 常に対象者を尊重し倫理観に基づいた看護実践			
	4. 対象者・家族の望む生活に向けたチーム医療の連携の実際と看護師の役割について理解でき、連携・協働するために必要な基本的能力を身につける	1) 対象者・家族の望む生活に向けたチーム医療の連携の実際 2) 対象者に起こりうるリスクアセスメントと安全なケア			
	5. 終末期看護について考え、今後の学習課題が明らかになる	1) 対象者との関わりを通して人間の尊厳や自己の死生観について考える 2) 自己の看護者としての成長と課題が明らかになる			
<b>履修上の留意点</b> 対象者と真剣に向き合うことが求められ、感情が揺さぶられる経験をします。その感情を表現するように意識し、感情が不安定な時は早めに報告し対処行動を取りながら実習に取り組みましょう。				<b>評価方法</b> 実習目標到達状況（ルーブリック）にもとづく評価（90点） 実習態度評価（10点）	

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	3年次	担当講師	大海貴子
科目名	健康保持増進看護 実習	単位数	2単位		
		時間数	90時間		
事前学習内容 実習内要項内に示しています					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 成人期、老年期の特徴を踏まえ、病気と共に生活するための支援や生活習慣病などの健康保持増進に向けた支援を実施する。					
DPとの 関連	DP1 看護の対象である人間を総合的に理解することができる				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる				
時間	学習内容と成果				
90	1. 成人期・老年期の発達段階の特徴および健康課題を総合的に理解できる 2. 対象者の発達段階の特徴をふまえ、成人期・老年期にある人の健康保持・増進に向けた看護を実践・評価できる 3. 地域・病院で実施されている保健・医療・福祉チームの連携の実際と看護師の役割を理解し、チームの一員としての行動ができる 4. 地域・病院で行われている健康保持増進の看護について考え、理解できる	1) 成人期・老年期の特徴と生活の理解 2) 対象者の特徴をふまえた健康課題 1) セルフケアに影響を与える因子の把握 2) 対象者に求められる療養行動とセルフケア能力のアセスメント 3) 強みに着目した看護実践と評価 4) 生活習慣病を予防する為の看護実践と評価 5) 介護予防支援の実践と評価 6) ソーシャルサポートの理解 1) 医療提供システムとしての看護・他職種の役割の理解と連携 2) それぞれの生活の場の特徴と看護の役割 3) 社会保障制度と社会資源への理解 4) 地域の保健医療福祉計画と看護活動 5) ヘルスプロモーションの理解 6) 一次予防・二次予防・三次予防の理解 7) チームにおける自己の役割の認識と行動 1) 自己の看護過程・看護場面を振り返り、健康の保持・増進の看護について考える 2) 自己の成長と課題を明らかにする			
<b>実習上の留意点</b> ・実習の概要・実習要項を熟読し、計画的に行動する ・既知の学習を想起、活用しながら取り組む		<b>評価方法</b> 実習目標到達状況（ルーブリック）に基づく評価（90点）・実習態度評価（10点）			

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	3年次	担当講師	谷口 留充 安達 文佳
科目名	母性看護学実習	単位数	2単位		
		時間数	90時間		
事前学習内容 実習要項内に指示しています。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 正常経過にある妊産褥婦の身体的・心理的・社会的特性を理解し、妊娠期から育児期までの看護の実際を学ぶ。また、地域支援実習を取り入れ、地域で暮らす母、児、その家族の状況や思いをとらえ、より健康に過ごすためにどのような支援活動が必要かを知り、その中での看護職の役割について学ぶ。さらに、母性看護学実習をおして自己の母性観・父性観が育成されることをねらいとする。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者として自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に対応できる力を身につけるために、自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
時間	目標と学習内容				
90	1. マタニティサイクルにある対象と児をに総合的に理解できる。  2. マタニティサイクルにある対象の特徴をふまえ、健康の保持・増進に向けた看護を実践し評価できる。  3. 対象者と適切な関係を築き、関係形成過程から自己の成長と課題に気付くことができる。  4. 地域・病院で実施されている保健医療福祉チームの連携の実際と看護師の役割を理解し、チームの一員としての行動がとれる。  5. マタニティサイクルにある対象と児との関わりから母性看護について考え理解できる。	1) マタニティサイクルにある対象と新生児の身体的・心理的・社会的特徴の理解 2) 妊産褥婦・新生児の生理機能をふまえたアセスメント 1) マタニティサイクルにある対象の順調な経過と母親役割獲得に向けた看護の実践と評価 2) 胎外生活の適応に向けた看護の実践と評価 1) 新しい家族を迎える対象へ命を慈しむ態度を持った関係形成と関係形成過程の振り返り 1) 母子とその家族を支える保健・医療・福祉システムの理解 2) 保健・医療・福祉チームにおける連携と看護師の役割 3) 母子と家族を支えるチームの一員としての役割を考えた行動 1) 自己の援助過程、看護場面の振り返り母性看護について考える 2) 自己の母性観・父性観をみつめ、成長と課題を明らかにする			
履修上の留意点				評価方法	
母性看護学実習要項を熟読し自己学習を進め、母性看護技術も実施できるように準備し実習に臨みましょう。				実習目標到達状況（ルーブリック） にもとづく評価（90点）、 実習態度評価（10点）	

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	3年次	担当講師	谷口 留充
科目名	小児看護学実習	単位数	2単位		
		時間数	90時間		
事前学習内容 実習要項内に指示しています。					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 小児期にある対象の特徴を総合的に理解し、発達段階、健康段階に応じた看護の実際を学ぶ。また、子どもを取り巻く保健・医療・福祉、教育など各組織の機能と連携の実際、その中での看護の役割について考える。子どもと家族への看護実践を振り返り、健やかな成長発達を支える看護について理解する。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、他職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に適応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探究し続けることができる。				
時間	目標と学習内容				
90	1. 小児期にある対象と家族を総合的に捉え理解できる。  2. 小児期にある対象の健やかな成長・発達を支えるとともに、健康段階に応じた援助を行い、成果を検討する。  3. 対象と関係形成を築き、その関係形成過程から自己の成長と課題に気づくことができる。  4. 子どもの健全な成長発達を支える、保健・医療・福祉、教育の中での看護職の役割と責任について理解できる。  5. 子どもと家族との関わりを通して自己を見つめ小児看護について考える。	1) 対象の成長発達段階と身体的・精神的・社会的特徴の理解 2) 子どもと家族を1つの単位として捉えること の理解  1) 対象の健康状態のアセスメント 2) 健康障害及び治療・処置・検査が対象の生活に及ぼす影響の理解 3) 対象の状態に合わせた基本的な生活習慣確立へ向けた看護実践と評価 4) 対象の状態に合わせた治療・検査・処置時の看護実践と評価 5) 対象の健康段階、成長発達に応じた安全を考えた実践と評価  1) 子どもの人権や人権尊重を念頭においた関係形成と、関係形成過程の振り返り  1) 対象を支える、保健・医療・福祉、教育の役割と機能と看護職の役割 2) チームの一員としての行動と自己の振り返り  1) 子どもの健全な成長発達を支える看護を考える。 2) 自己の学びと課題を明確にする。			
履修上の留意点				評価方法	
様々な施設で実習を行います。短期間で有意義な実習にするため、小児看護学実習要項実習を熟読し、事前学習にしっかり取り組んだ上で実習へ臨みましょう。				実習目標到達状況（ループリック） にもとづく評価（90点） 実習態度評価（10点）	

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	3年次	担当講師	田中佳代子
科目名	精神看護学実習	単位数	2単位		
		時間数	90時間		
事前学習内容					
<b>科目全体のねらい・授業目標</b> 精神に健康問題を持つ対象を全人的に理解し、可能な限り精神的健康を回復させるために必要な看護援助について考える中で、精神保健医療福祉領域における各専門職の役割と機能、地域生活支援のあり方、対象とその家族に対する看護について学ぶ。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、他職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に適応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探索し続けることができる。				
時間	目標と学習内容				
90	1. 入院中の対象者を生物学的・心理学的・社会的側面から全人的に理解できる  2. 対象の回復を支えるために必要となる看護を考え実践できる  3. 保健・医療・福祉チームの連携の必要性を理解し、チームに連携・協働するために必要な基本的能力を身につける  4. 精神障がい者やその家族にとってのより良い看護を考えることができる	1) 対象者の生活史を捉える 2) 対象者の生活を困難にさせている要因を身体・心理・社会的側面から理解し、ストレスに目を向けた看護を考える 1) 入院中の対象者に現れている症状、入院環境や治療が対象者に与える影響を分析する 2) 入院中の対象者の状態に応じて強みを活かした看護援助を実践し考察する 3) 入院中の対象者に対する治療的コミュニケーションの実践と自己洞察 4) 対象の安全と権利を守ることについて法的根拠に基づいて考え 5) 社会資源の活用 1) 対象の望生活を支えるための多職種連携の必要性と看護職の役割 2) チームの一員としての責任ある行動と自己のあり方 1) 「回復を支える」ということについての学びと、看護実践における自己の課題			
履修上の留意点				評価方法	
1年次から学んできた精神看護学の知識を活用しながら実習を展開していきます。実習要項に示された学習内容に取り組みながら、1年次からの学習内容を整理して実習に臨んでください。				実習目標到達状況（ルーブリック） にもとづく評価（90点） 実習態度評価（10点）	

## 授業概要

分野	専門分野	履修年次	3年次	担当講師	杉垣ひとみ
科目名	総合実習	単位数	2単位		
		時間数	90時間		
事前学習内容 領域別実習までの目標到達度を振り返り、個人目標を明確にする。実習前オリエンテーションを受け、臨地実習計画を見通した準備を行う。					
科目全体のねらい・授業目標 看護チームの活動に参加し、看護実践能力を高めるとともに、これまで学んだことを統合して、看護の本質を考え、看護活動に活かすことができる能力を養うことをねらう。					
DPとの関連	DP1 看護の対象である人間を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる。				
	DP2 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断ができる。				
	DP3 健康の保持・増進、疾病の予防及び健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践することができる。				
	DP4 人間の生命と人権の尊重を基盤とする倫理観に基づいた看護実践ができる。				
	DP5 援助者としての自己を意識したコミュニケーションにより、人間関係を形成することができる。				
	DP6 保健医療福祉チームにおける看護専門職としての役割と責任を自覚し、他職種と連携・協働することができる。				
	DP7 変化する社会に適応できる力を身につけるために自己啓発に努め、看護を探索し続けることができる。				
時間	目標と学習内容				
90	1. 看護管理の実際が理解できる	1) 看護組織の機能と管理 2) 安全な環境確保 3) 看護チームにおけるリーダーシップ、メンバーシップ 4) 継続した看護サービス、管理の実際			
	2. 複数の対象者のマネジメントをしながら対象者の状況に応じた看護が実践できる	1) 科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断 2) 対象者の状況判断と優先順位の決定、時間管理 3) 安全な看護技術の実践			
	3. 保健・医療・福祉チームにおける看護師としての役割と責任を自覚し多職種と連携・協働することができる	1) チーム医療、他職種との協働におけるマネジメント 2) 対象に関する看護援助についてチームメンバーとともに調整、援助内容検討、援助評価 3) チームの一員としての責任ある行動			
	4. 看護師に必要な能力・資質と自己の課題を明らかにする	1) 自己の看護実践能力の振り返り、看護の専門性を考える 2) 自己の看護者としての課題 3) 今後取り組む学習課題			
履修上の留意点				評価方法	
集大成の臨地実習です。積み上げてきた能力が発揮できるように、実習目的に向けてグループメンバーと情報共有・調整して主体的に実習に取り組みましょう。				実習目標到達状況（ルブリック）にもとづく評価（90点） 実習態度評価（10点）	